富山県

南砺市埋蔵文化財分布調査報告９

－ 平・上平地域 －

２０１３年度

2014年3月

南 砺 市 教 育 委 員 会

富山県

南砺市埋蔵文化財分布調査報告９

－ 平・上平地域 －

２０１３年度

2014年3月

南 砺 市 教 育 委 員 会

序

南砺市には、国指定の高瀬遺跡や世界遺産にも登録されている相倉・菅沼の合掌造り集落などの貴重な文化財が数多く存在しています。また、はるか太古からの先人の営みも残されており、立野ヶ原台地における旧石器時代の遺跡群をはじめ、市内の各所には縄文時代から中近世までの遺跡が多数確認されています。

このような文化財は、現代に生きる我々が未来へと受け継ぐ財産です。地域で産まれ、育まれてきた文化財は保護・活用することで地域の発展に貢献すると考えております。市内に残された遺跡は市の歴史を語るうえで他に代えることのできない貴重な資料であり、大切な文化遺産です。

市教育委員会では遺跡の把握、保存に努めるために、詳細分布調査を行ってきました。市内の遺跡地図を充実させることは、今後の遺跡の保存と整備、開発行為との調整において欠かせません。長年にわたって富山大学考古学研究室のご協力のもと、詳細分布調査を行い、市内の平野部及び山間地域の緩傾斜地については今年度で終えることができました。

この報告書が今後の学術研究や、郷土の歴史を知るための参考となり、文化財保護に対する理解の一助になりましたら幸いです。

最後に、調査の実施にあたり、多大なご協力とご理解をいただきました富山大学考古学研究室、地元の方々、関係者の方々に深く感謝申し上げるとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年３月

南砺市教育委員会
教育長　高 田　　勇

例　　言

1　本書は南砺市教育委員会が国庫補助をうけて実施している、市内遺跡詳細分布調査（2013年度）の調査報告である。

2　調査は富山大学考古学研究室の指導と協力を得て、南砺市教育委員会が主体となり実施した。

3　今年度の調査は、南砺市平地域（祖山・杉尾・渡原・大崩島・寿川・入谷・東中江・高草嶺・夏焼・下出・篭渡・大島・上松尾・小来栖・来栖・下梨・中畑・見座・相倉・上梨・田向）、上平地域（高草嶺・猪谷・皆葎・小原・葎島・細島・菅沼・小瀬・漆谷・田下・下島・上中田・新屋・東赤尾・真木・西赤尾町・楮・成出）を対象とした。調査期間は次のとおりである。

平成25年10月12日（土）～　平成25年10月14日（月）

4　調査事務局は南砺市教育委員会 文化・世界遺産課におき、世界遺産・文化財係長 林 浩明、同主任 宮崎順一郎、片田 亜紀が調査事務を担当し、課長 浦辻 一成が総括した。現地踏査、資料の整理、本書の執筆と編集は、以下の調査担当者、調査補助員が分担して行い、執筆の分担は文末に記した。

・調査担当者

富山大学人文学部考古学研究室　教授　次山　淳
同　准教授　髙橋浩二
南砺市教育委員会 文化・世界遺産課　世界遺産・文化財係　係長　林　浩明
同　主任　宮崎順一郎
同　主任　片田亜紀

・調査補助員

富山大学人文学部考古学研究室　大学院生　盛田拳生
同　四回生　金田朋子・小谷望有季・清水俊輝・寸田彩加・山場愛弓
同　三回生　岡山充味・菅野友希・小林史佳・藤井奎臣・吉田　皓
同　二回生　上野詩織・奥　勇介・高見淳人・西脇悠生・矢野実沙希・山口七奈枝
南砺市臨時職員　河合陽子・木本和美

5　現地調査では平・上平地域各地区の方々に多大なご協力、ご理解を得た。記して深く感謝したい。

6　採集遺物および記録図面は、南砺市教育委員会が保管している。

7　本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。

（1）方位は真北である。
（2）挿図の遺物実測図の縮尺は原則として1/3である。
（3）写真図版の遺物番号は遺物実測図の番号と一致する。

本文目次

序　　文
例　　言
目　　次
Ⅰ　位置と環境 …… 1
Ⅱ　調査の経過 …… 2
第1表　平地域の埋蔵文化財包蔵地 …… 3
第2表　上平地域の埋蔵文化財包蔵地 …… 4
Ⅲ　調査の概要 …… 8
1　遺跡と採集遺物 …… 8
A　平地域 …… 8
B　上平地域 …… 9
2．遺物の散布状況 …… 10
A　平地域 …… 10
B　上平地域 …… 11
3　山間部と扇状地部における土地利用の変遷…11
第3表　各地域における遺物の採集点数と採集ブロック数 …… 12
Ⅳ　まとめ …… 12
参考文献 …… 12
第4表　調査結果一覧 …… 13

図版目次

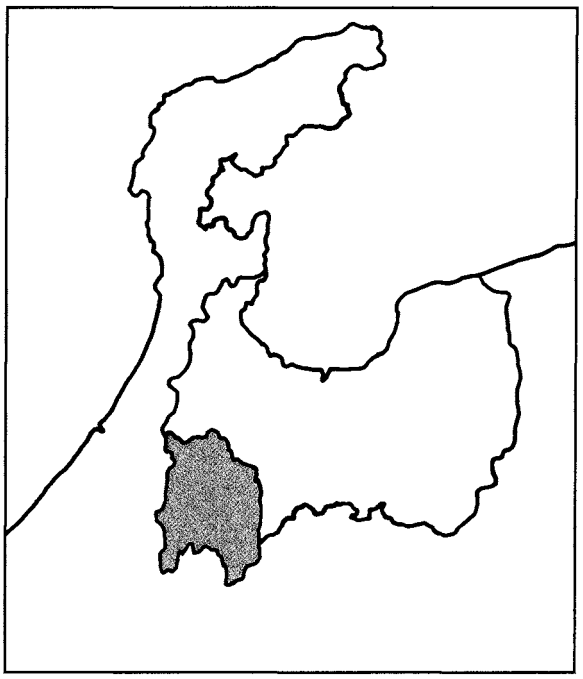
第 1 図　南砺市位置図 …… 1
第 2 図　調査地区割図(1/200,000)……5
第 3 図　調査地区概要図 平地域(1/50,000)…… 6
第 4 図　調査地区概要図 上平地域(1/50,000)… 7
第 5 図　調査結果概要図 平地域1(1/10,000)…14
第 6 図　調査結果概要図 平地域2(1/10,000)…15
第 7 図　調査結果概要図 平地域3(1/10,000)…16
第 8 図　調査結果概要図 平地域4(1/10,000)…17
第 9 図　調査結果概要図 上平地域1(1/10,000)…18
第 10 図　調査結果概要図 上平地域2(1/10,000)…19
第 11 図　調査結果概要図 上平地域3(1/10,000)…20
第 12 図　調査結果概要図 上平地域4(1/10,000)…21
第 13 図　縄文･弥生～古墳の遺物散布状況 平地域1(1/20,000) …… 22
第 14 図　古代･中世の遺物散布状況 平地域1(1/20,000) …… 23
第 15 図　近世以降の遺物散布状況 平地域1(1/20,000) …… 24
第 16 図　縄文･弥生～古墳の遺物散布状況 平地域2(1/20,000) …… 25
第 17 図　古代･中世の遺物散布状況 平地域2(1/20,000) …… 26
第 18 図　近世以降の遺物散布状況 平地域2(1/20,000) …… 27
第 19 図　縄文･弥生～古墳の遺物散布状況 上平地域1(1/20,000) …… 28
第 20 図　古代･中世の遺物散布状況 上平地域1(1/20,000) …… 29
第 21 図　近世以降の遺物散布状況 上平地域1(1/20,000) …… 30
第 22 図　縄文･弥生～古墳の遺物散布状況 上平地域2(1/20,000) …… 31
第 23 図　古代･中世の遺物散布状況 上平地域2(1/20,000) …… 32
第 24 図　近世以降の遺物散布状況 上平地域2(1/20,000) …… 33
第 25 図　遺物実測図(1/3) ……34

写真図版目次

図版 1　遺跡全景（1）平地域 1
図版 2　遺跡全景（2）平地域 2
図版 3　遺跡全景（3）平地域 3
図版 4　遺跡全景（4）上平地域 1
図版 5　遺跡全景（5）上平地域 2
図版 6　遺跡全景（6）上平地域 3
図版 7　遺物写真

Ⅰ　位置と環境

平成16年11月１日、砺波地方所在の八町村であった城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町が合併し南砺市が誕生した。南砺市は富山県の南西部端に位置し、北は砺波市、小矢部市に、東は富山市に、西は石川県金沢市、南は岐阜県飛騨市や白川村に隣接している。山間部は、白山国立公園に指定され、すぐれた自然景観を残しており、庄川や小矢部川の流れる平野部は水田地帯として、また、「散居村」として知られている。面積は668.86平方kmで東西約26km、南北約39kmに広がっている。



第１図　南砺市位置図

旧石器時代の遺跡は、福光・城端両地域の境に位置する立野ヶ原を中心に広がっており、点在する144か所の遺跡は立野ヶ原遺跡群と呼ばれている。めのうや鉄石英が豊富で、それらを利用した石器製作場所がいくつか確認されており、富山県内で最も古い遺跡群の１つとして知られている。

縄文時代に入ると、生活の場は平野部にも広がる。草創期から前期にかけて確認している遺跡数は少ないものの、中期には西原Ａ遺跡や徳成遺跡、後・晩期には後期の指標遺跡である井口遺跡をはじめ安居五百歩遺跡、五瀬遺跡がある。

弥生・古墳時代の遺跡は、確認されている数が少ないが、近年のほ場整備事業等により神成遺跡では、弥生終末期から古墳時代にかけての竪穴住居や周溝遺構を確認しており、また梅原安丸Ⅲ遺跡では、古墳時代中期の竪穴住居を確認している。

古代の遺跡には、７世紀、９世紀の竪穴住居跡を約10棟確認した在房遺跡や、９世紀前半の梅原落戸遺跡がある。その他、中世の指標となる大集落として知られる梅原胡摩堂遺跡の東側で、８世紀から10世紀にかけての竪穴住居等の遺構を確認している。またこれら古代の集落に日常食器を供給していたであろう窯に安居・岩木窯跡群がある。

中世には、平野部に大規模な集落が広がる。梅原胡摩堂遺跡をはじめ久戸遺跡から田尻遺跡に至る中世集落跡は南北２km、東西１kmにわたり、掘立柱建物、竪穴状土坑、井戸、区画溝などの遺構や、中世土師器、珠洲焼、青磁、白磁、瀬戸などの遺物が多く確認されている。

今年度の対象地域は、平・上平地域である。平・上平地域は富山県の西南端で白山山系の山岳地帯に位置する。奥飛騨の山中に源を発する庄川は深い渓谷を刻んで上平地域の中央を北東に流れ、やがて東に流れを変えて、平地域を流れている。深い山林に覆われ、起伏が多く、急峻な地形で庄川沿いの僅かな段丘に集落が点在する。

平地域の周知の埋蔵文化財は、現在の集落と同じように庄川の両岸の平坦面や緩傾斜地に立地し、縄文時代の遺跡が主である。最も古いものでは、下梨こもむら遺跡と来栖遺跡で発見された中期初頭の新保式の縄文土器である。縄文時代中期の遺跡には、東中江遺跡、下梨こもむら遺跡、下梨馬馳場遺跡、下梨花房遺跡、峠遺跡などがある。東中江遺跡は昭和53年～54年度に東中江小学校の建設に伴って調査が実施され、石組み炉を

伴う住居跡や、縄文土器、石製品が見つかっている。この遺跡は縄文時代中期初頭から、後期、晩期と断続的に営まれており、中心となる時期は、縄文時代中期～後期である。中世の遺跡には長慶天皇の墳墓とされる天王山墳墓、金森長門守家臣あるいは荘官百姓であった藤井九郎右衛門の城館と言われる藤井城跡がある。近世の遺跡では、上梨集落雪崩防畳、流刑人の篠田余太夫がコレラ病死者を悼んで建立を発起し建てられた、流刑人建立の墓石がある。

上平地域の周知の埋蔵文化財も縄文時代が多い。縄文時代の遺跡では、皆葎遺跡、下島遺跡、小原遺跡、細島遺跡、菅沼遺跡、小瀬遺跡、漆谷遺跡、上中田遺跡、東赤尾遺跡、西赤尾遺跡、西赤尾上野遺跡、楮遺跡、成出遺跡が知られている。中世では南北朝時代の古戦場と伝えられる八若城跡や漆谷城跡、また丸岡城跡がある。丸岡城跡は越中と飛騨の国境の要衝であることから、地元の土豪が拠点を設け、整備拡充されたと考えられる。『越登賀三州志』によると城主は角淵新右衛門とされている。他に、経典を埋納したとされる真木経塚、赤尾経塚がある。近世では赤尾道宗の父とされる角淵刑部左衛門の墓がある。

（片田亜紀）

Ⅱ　調査の経過

平成16年11月の町村合併までに各々の旧町村で確認していた埋蔵文化財包蔵地（以下、「包蔵地」）の数は、590ヶ所あまりである。これらの包蔵地の多くは、古い伝承に基づくもの、開発行為にかかる事前調査によって発見されたものである。町村合併時において、詳細な分布調査が行われていたのは、旧福野町全域、旧城端町域の平野部、旧福光町・旧井口村域においては県営ほ場整備事業等の大規模な開発行為が行われた地域のみであった。市内には、未だ包蔵地の詳細が全く確認されていない未調査地区が多く、包蔵地の保護と開発行為との円滑な調整を図っていくためにも、詳細な分布調査を実施することとなった。

分布調査の実施については、旧城端町で平成13年度より７ヶ年にわたって町全域を調査する予定にしていたが、町村合併にあたり計画変更を行い、平成18、19年度に調査予定であった旧城端町域の山間部を先送りし、未だ未調査地区が多い南砺市の平野部について先行し調査を行うこととした。

南砺市平野部における未調査地区は、福光地域（調査実施済みである北山田地区、高宮・小林・殿の一部、岩木、祖谷、竹内を除く）、井口地域の一部、井波地域、平地域、上平地域である。このうち、福光地域を４分割、井波地域を２分割、井口地域、平地域、上平地域を合わせて２分割し、未調査地区を８分割し８ヶ年で南砺市平野部の調査を実施することとした（第２図参照）。調査の成果は年度毎に報告書にまとめ公表してきた。

調査は、南砺市が国庫補助を受け、富山大学考古学研究室の指導・協力を得て進めることとした。今年度の現地踏査は秋期に平・上平地域で行った。踏査の際は、1/2,500もしくは1/5,000の地形図を持参し、田畑一枚一枚をくまなく踏査し、土器、石器等の遺物を採集して、採集地点を図面に記録した。採集した遺物は、洗浄後採集地点を注記し、実測作業をおこなった。その後、遺物の散布状況、地形、伝承等も加味しつつ、包蔵地の範囲を決定した。

今年度の調査対象地において、調査実施までに確認している周知の包蔵地及び調査履歴については、第１表及び第２表のとおりである。

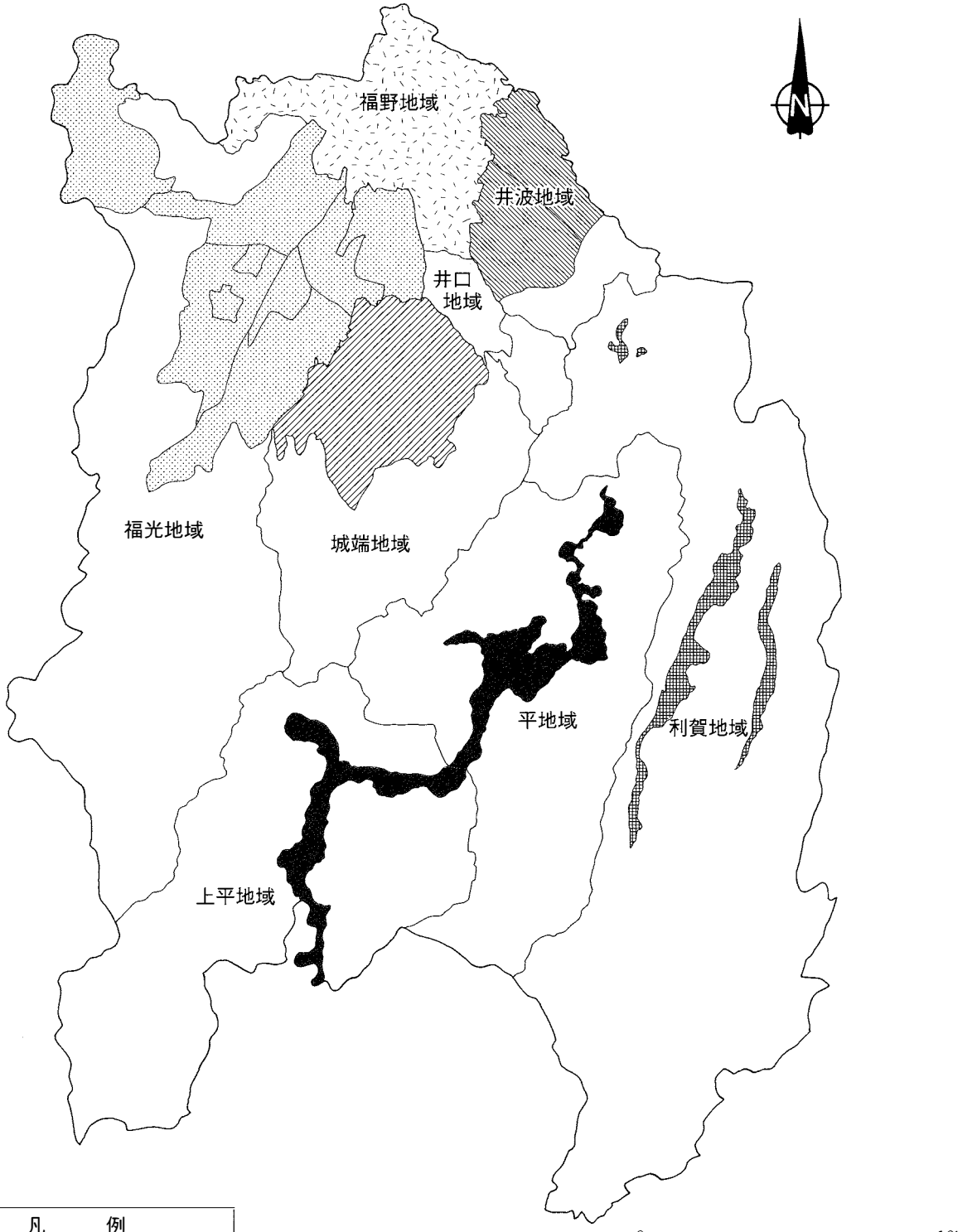
（片田亜紀）

第１表　平地域の埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	ふりがな	所在地	主な時代	種別	調査履歴	備考	No.
祖山遺跡	そやまいせき	祖山	縄文	縄文集落、 中世散布地	S63 試掘（ほ場整備） H8 試掘（退避場造成）	盛土により現状保存した。	1
杉尾遺跡	すぎおいせき	杉尾	縄文	縄文散布地	H9試掘（ほ場整備）		2
渡原遺跡	どのはらいせき	渡原	縄文	縄文散布地			3
大崩島遺跡	おおくずしまいせき	大崩島	縄文	縄文散布地	H8 試掘（村道）		4
寿川遺跡	すがわいせき	寿川	縄文	縄文散布地	S54試掘		5
東中江遺跡	ひがしなかえいせき	東中江字西平	縄文中、 縄文後、 縄文晩、 弥生、 古代、 中世	縄文中集落、 縄文後集落、 縄文晩集落、 弥生散布地、 平安散布地、 古代散布地、 中世散布地	S53試掘・本調査（小学校建設） S54本調査（小学校建設） S58試掘（ほ場整備） H5試掘（民間事務所） H14試掘（道路）		6
下出遺跡	しもでいせき	下出字池の尻	縄文	縄文集落			7
下出経塚	しもできょうづか	下出字経塚田	室町	室町経塚			8
高草嶺遺跡	たかそうれいいせき	高草嶺字山田	縄文	縄文散布地			9
下梨上林遺跡	しもなしかんばやしいせき	下梨字上林	縄文	縄文散布地			10
小来栖遺跡	こぐるすいせき	小来栖字上村口	縄文	縄文散布地	S55 試掘（ほ場整備） S57 試掘（ほ場整備）		11
下梨花房遺跡	しもなしはなふさいせき	下梨	縄文前、 縄文中、 縄文後、 縄文晩、 古代、 中世	縄文前散布地、 縄文中集落、 縄文後集落、 縄文晩散布地、 古代散布地、 中世散布地	S62試掘（ほ場整備）	遺跡内の試掘調査対象地区は盛土による方法で遺跡を保存した。	12
天王山墳墓	てんのうざんふんぼ	下梨	中世	中世墓			13
下梨上ノ平遺跡	しもなしうわのだいらいせき	下梨字上ノ平	縄文	縄文散布地			14
下梨こもむら遺跡	しもなしこもむらいせき	下梨字こもむら	縄文前、 縄文中、 縄文後	縄文前散布地、 縄文中散布地、 縄文後散布地、 縄文晩散布地	S38本調査（道路）		15
藤井城跡	ふじいじょうあと	下梨字馬馳場	縄文、 中世	縄文散布地 中世城館			16
下梨馬馳場遺跡	しもなしうまはせばいせき	下梨字馬馳場	縄文中	縄文散布地			17
下梨中ノ平遺跡	しもなしなかのだいらいせき	下梨字中ノ平	縄文	縄文散布地			18
籠渡遺跡	かごどいせき	篭渡	縄文	縄文散布地	H2試掘（ほ場整備）		19
来栖遺跡	くるすいせき	来栖字岩野	縄文中、 縄文後、 縄文晩	縄文中散布地、 縄文晩散布地	S54試掘（ほ場整備）		20
峠遺跡	とうげいせき	相倉	縄文	縄文散布地			21
上梨集落雪崩防畳	かみなししゅうらく なだれぼう じょう	上梨	近世	近世その他 （雪崩防畳）			22
上梨遺跡	かみなしいせき	上梨字家来	縄文後、 縄文晩	縄文散布地			23
田向遺跡	たむかいいせき	田向字大平	縄文後、 縄文晩	縄文散布地			24
流刑人建立の墓石	るけいにんこんりゅうのぼせき	田向	近世	近世墓			25

第2表　上平地域の埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	ふりがな	所在地	主な時代	種別	調査履歴	備考	No.
高草嶺遺跡	たかそうれいいせき	猪谷	縄文早、縄文前、縄文中、縄文晩	縄文散布地	H7 試掘（個人住宅） H12 試掘（林道）		26
八若城跡	はちわかじょうあと	猪谷	中世	中世城館			27
皆葎遺跡	かいむくらいせき	皆葎	縄文中、縄文後	縄文散布地			28
下島遺跡	しもじまいせき	猪谷	縄文	縄文散布地			29
小原遺跡	おはらいせき	小原	縄文	縄文散布地			30
細島遺跡	ほそじまいせき	細島	縄文、中世、近世	縄文集落、中世散布地、近世散布地	S53試掘（国道156号） S60試掘（個人住宅）	遺跡の中心は現国道と庄川との間の水田部分にある。	31
小瀬遺跡	おぜいせき	小瀬	縄文	縄文散布地			32
菅沼遺跡	すがぬまいせき	菅沼	縄文、近世	縄文散布地、近世散布地	H8試掘（器材置場）		33
漆谷城跡	うるしたにじょうあと	漆谷	中世	中世城館			34
漆谷遺跡	うるしたにいせき	漆谷	縄文	縄文散布地	S55試掘（ほ場整備）	当遺跡出土の通称石ランプと呼ばれる石器や擦石が個人宅に保管されている。	35
上中田遺跡	かみなかだいせき	上中田	縄文	縄文散布地	S52試掘（ほ場整備）		36
赤尾経塚	あかおきょうづか	西赤尾	室町	中世経塚			37
東赤尾遺跡	ひがしあかおいせき	東赤尾	縄文中、縄文後、縄文晩	縄文散布地			38
角淵刑部左衛門の墓	かくぶちぎょうぶざえもんのはか	西赤尾	近世	近世墓			39
西赤尾遺跡	にしあかおいせき	西赤尾	縄文、室町	縄文散布地、中世散布地	H12試掘（個人住宅）		40
丸岡城跡	まるおかじょうあと	西赤尾	中世	中世城館	S53試掘（ほ場整備）		41
真木経塚	まききょうづか	真木	室町	中世経塚			42
西赤尾上野遺跡	にしあかおうわのいせき	西赤尾	縄文	縄文散布地	S54試掘（ほ場整備）	試掘調査では遺構・遺物はほとんど発見されず、ほ場整備は計画どおり実施された。	43
楮遺跡	こうずいせき	楮	縄文、縄文後	縄文散布地			44
成出遺跡	なるでいせき	成出	縄文	縄文散布地			45



凡　　例	
調査完了地域	
地域名	調査期間
福野地域	H7～H9
城端地域	H13～H17
利賀地域	H15
福光地域	H18～H22
井波地域	H22～H23
井口地域	H24
平・上平地域	H25

第２図　調査地区割図（S＝1/200,000）

第３図　調査地区概要図　平地域（S＝1/50,000）

第４図　調査地区概要図　上平地域（S＝1/50,000）

Ⅲ　調査の概要

１　遺跡と採集遺物

Ａ　平地域

（１）東中江遺跡（第25図・図版７）

縄文時代中期・後期・晩期、弥生時代、古代、中世の遺跡として周知されている。採集した遺物は、縄文土器12点、珠洲焼１点、施釉陶器1点である。このうち縄文土器２点、珠洲焼１点を図示した。

1　縄文土器の口縁部片。口唇部に幅広の内径面をもち、外面上部に半裁竹管の刺突によるＣ字爪形文、外面下部に半裁竹管内側による最低３条の平行沈線文を施す。内面に指オサエがみられる。胎土は粗く砂礫を含む。色調は外面が黒褐色、内面がにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好。

2　縄文土器の体部片。外面に半截竹管による半隆起線文３条を施す。上部２条の半隆起線上には、切削による平行線が施されている。胎土は粗く約１㎜の砂粒を含む。色調は外面がにぶい黄褐色、内面が灰褐色を呈する。焼成は良好。

3　珠洲焼の壺あるいは甕の体部片。外面に綾杉状の平行タタキ目、内面に押圧具跡が残る。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

（２）小来栖遺跡（第25図・図版７）

縄文時代の遺跡として周知されている。採集した遺物は、珠洲焼3点である。このうち２点が接合したため、その２点を図示した。

4　珠洲焼の壺あるいは甕の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

5　珠洲焼の壺あるいは甕の体部片。２片が接合。外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

（３）その他の遺跡

平地域における今回の調査範囲には、上記の２遺跡の他にも、1　祖山遺跡（縄文）、2　杉尾遺跡（縄文）、3　渡原遺跡（縄文）、4　大崩島遺跡（縄文）、5　寿川遺跡（縄文）、7　下出遺跡（縄文）、8　下出経塚（室町）、9　高草嶺遺跡（縄文）、10　下梨上林遺跡（縄文）、12　下梨花房遺跡（縄文前・縄文中・縄文後・縄文晩・古代・中世）、13　天王山墳墓（中世）、14　下梨上ノ平遺跡（縄文）、15　下梨こもむら遺跡（縄文前・縄文中・縄文後）、16　藤井城跡（縄文・中世）、17　下梨馬馳場遺跡（縄文中）、18　下梨中ノ平遺跡（縄文）、19　籠渡遺跡（縄文）、20　来栖遺跡（縄文中・縄文後・縄文晩）、21　峠遺跡（縄文）、22　上梨集落雪崩防畳（近世）、23　上梨遺跡（縄文後・縄文晩）、24　田向遺跡（縄文後・縄文晩）、25　流刑人建立の墓石（近世）が所在する。

図示できなかったが、祖山遺跡で近世以降の陶磁器片１点、下出遺跡で近世以降の陶磁器片１点、上梨遺跡で縄文土器９点、陶磁器３点が出土している。その他の周知の遺跡範囲での採集遺物はない。

（４）その他の採集遺物（第25図・図版７）

遺跡範囲外の採集品についても、将来的な遺跡発見の可能性を高めるために、すべての採集地点を記録している。今回、平地域での遺跡範囲外採集品には、珠洲焼２点、近世以降の土師質土器２点、陶磁器13点、五輪塔または宝篋印塔の破片１点がある。このうち、珠洲焼２点、陶器１点を図示した。

6　珠洲焼の壺あるいは甕の体部片。外面に綾杉状の平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密で約2mmの砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

7　珠洲焼の壺あるいは甕の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密で径1㎜以下の砂粒を含む。色調は内外面が暗灰色、断面が灰色を呈す。焼成は良好。

8　陶器碗の底部片。復元底径は約3.4㎝を測る。高台は削り出し高台である。高台内に径6㎜の同心円状の高まりを残す。外面と高台内の一部に灰釉を施す。見込み部分は無釉である。胎土は密である。素地は灰白色を呈す。焼成は良好。

B　上平地域

（1）皆葎遺跡（第25図・図版7）

縄文時代中期・後期の遺跡として周知されている。採集した遺物は、縄文土器74点、珠洲焼1点である。このうち、縄文土器14点を図示した。

9　縄文土器の体部片。外面にヘラ描きの沈線文を施す。内面に炭化物の付着がみられる。胎土は粗く、砂礫を含む。色調は内面がにぶい黄橙色、外面が浅黄色、断面が黒褐色を呈する。焼成は良好。

10　縄文土器の体部片。外面に右撚りの斜行縄文、内面に指オサエがみられる。胎土は粗く砂礫を含む。色調は外面がにぶい黄橙色、内面が橙色を呈する。焼成は良好。

11　縄文土器の口縁部片。外面にヘラ状工具先端の押捺による施文がある。胎土は粗く、約1㎜以下の砂粒を含む。色調は橙色を呈する。焼成は良好。

12　縄文土器の体部片。外面に竹管状工具によるC字状の押捺施文がみられる。胎土は密で砂粒を含む。色調は外面が褐色、内面が赤褐色、断面が灰色を呈する。焼成は良好。

13　縄文土器の体部片。外面に半截竹管による2条の半隆起線文、その下に多截竹管の突刺による角押文を施す。胎土は粗く、約1㎜以下の砂粒を含む。色調は外面が明褐色、内面がにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好。

14　縄文土器の口縁部片。外面に右撚りの撚糸文ののち口縁部にナデツケをおこない、口唇上辺はくぼむ。胎土は粗く、砂礫を含む。色調はにぶい黄色を呈す。焼成は良好。

15　縄文土器の頸部片。屈曲部の外面に沈線文が1条水平にはしり、その直下には向かって右側から刺突したD字状の竹管文を施す。内面にナデの跡がみられる。胎土は粗く砂礫を含む。色調は外面上部がにぶい黄褐色、外面下部と内面がにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好。

16　縄文土器の体部片。外面に斜行縄文を施す。胎土は密であり、砂粒を含む。色調は外面がにぶい橙色で内面が褐色を呈する。焼成は良好。

17　縄文土器の体部片。外面は上部に沈線文が、また上部から下部にかけて一段左撚りの縄文が施されている。胎土は粗い。色調は、外面が黒褐色。内面が橙色を呈する。焼成は良好。

18　縄文土器の体部片。左下がりのヘラ描き沈線文を施す。胎土は粗く、砂礫を含む。色調は外面がにぶい黄橙色、内面が暗灰黄色を呈する。焼成は良好。

19　縄文土器の体部片。外面にR{L2}の単節斜縄文が見られる。胎土は密で径1㎜以下の砂粒を含む。色調は外面がにぶい黄褐色、内面が黒褐色、断面が黄褐色、外面と内面の一部が明褐色を呈す。焼成は良好。

20　縄文土器の口縁部片。外面に山形の沈線文が施されている。胎土は密で1㎜状の砂礫を含んでいる。色調は、外面が灰黄色。内面が灰白色を呈する。焼成は良好。

21　縄文土器の口縁部片。外面は上部に貝殻条痕文が2方向から施されており、また下部は波状の隆帯にそってD字状竹管文が施されている。胎土は粗く砂礫を含んでいる。色調は外面が黒褐色。内面が茶褐色

を呈する。焼成は良好。

22　縄文土器の口縁部片。外面に沈線がみられる。胎土は密で径１㎜以下の砂粒を含む。色調は内外面が褐色で、断面が灰色を呈する。焼成は良好。

（２）小原遺跡（第25図・図版７）

縄文時代の遺跡として周知されている。採集した遺物は、珠洲焼１点、陶磁器２点である。このうち珠洲焼１点を図示した。

23　珠洲焼の壺あるいは甕の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色。焼成は良好。

(3) その他の遺跡

上平地域における今回の調査範囲には、上記の2遺跡の他にも、26　高草嶺遺跡（縄文早・縄文前・縄文中・縄文晩)、27　八若城跡（中世)、29　下島遺跡（縄文)、31　細島遺跡（縄文、中世、近世)、32　小瀬遺跡(縄文)、33　菅沼遺跡（縄文･近世)、34　漆谷城跡（中世)、35　漆谷遺跡（縄文)、36　上中田遺跡（縄文)、37　赤尾経塚（室町)、38　東赤尾遺跡（縄文中・縄文後・縄文晩)、39　角淵刑部左衛門の墓（近世)、40　西赤尾遺跡（縄文・室町)、41　丸岡城跡（中世)、42　真木経塚（室町)、43　西赤尾上野遺跡（縄文)、44　楮遺跡（縄文・縄文後)、45　成出遺跡（縄文）が所在する。

図示できなかったが、東赤尾遺跡で近世以降の陶磁器片１点が出土している。その他の遺跡での採集遺物はない。

（４）その他の採集遺物（第25図・図版７）

今回、上平地域での遺跡範囲外採集品には、珠洲焼１点、陶磁器６点がある。以下の１点を図示した。

24　瀬戸焼の蓋である。断面は灰色を呈し、内外面の全体に灰釉を施す。胎土は密である。焼成は良好。

（上野詩織・奥勇介・高見淳人・西脇悠生・矢野実沙希・山口七奈枝・次山淳）

２　遺物の散布状況

平成24年度および今年度の調査で採集した遺物の総数は、平地域50点、上平地域86点の計136点である。これらの分布状況を時期別に大別、集計した。第13図～第24図では、１辺125mの方眼を設け、方眼１つを１ブロックとして、ブロック単位で採集遺物の点数を示している。各時期の総点数は、縄文95点（平地域21・上平地域74)、古代・中世９点（平地域６・上平地域３)、近世以降32点（平地域23・上平地域９）である。

A　平地域

（１）縄文時代の遺物散布状況（第13・16図）

縄文時代の遺物は、縄文土器21点を３ブロックから採集した。採集地点は、東中江遺跡の周知の範囲内から２点、範囲外であるが遺跡ののる台地北東の斜面周辺で10点採集した。また、上梨遺跡の周知の範囲内の東北部、庄川左岸近くから９点が出土している。なお、弥生・古墳時代の状況については、十分な情報が得られなかった。

（２）古代・中世の遺物散布状況（第14・17図）

古代・中世の遺物は、珠洲焼６点を４ブロックから採集した。東中江遺跡で１点、小来栖遺跡の東辺で３点

採集し、他は相倉地区など周知の遺跡外からの採集である。なお、古代の状況については、十分な情報が得られなかった。

（３）近世以降の遺物散布状況（第15・18図）

近世以降の遺物は、陶磁器など23点を16ブロックから採集した。祖山遺跡とその東部にややまとまった分布があり、東中江遺跡、下出遺跡、上梨遺跡においても採集されている。周知の遺跡範囲外では、東中江遺跡と下出遺跡の中間、庄川寄りの地点にややまとまった分布がある。

Ｂ　上平地域

（１）縄文時代の遺物散布状況（第19・22図）

縄文時代の遺物は、縄文土器74点を２ブロックから採集した。採集地点は、すべて皆葎遺跡の周知の範囲とその周辺であり、周知の範囲内で８点、範囲の北側で66点出土している。なお、弥生・古墳時代の状況については、十分な情報が得られなかった。

（２）古代・中世の遺物散布状況（第20・23図）

古代・中世の遺物は、珠洲焼３点を３ブロックから採集した。皆葎遺跡、小原遺跡から各１点採集し、両遺跡で中世の遺跡が存在する可能性が知られた。他の１点は縄文・室町時代の遺跡である西赤尾遺跡と、西赤尾上野遺跡の中間で採集した。なお、古代の状況については、十分な情報が得られなかった。

（３）近世以降の遺物散布状況（第21・24図）

近世以降の遺物は、陶磁器など９点を８ブロックから採集した。小原遺跡とその周辺、細島遺跡とその周辺、菅沼遺跡、東赤尾遺跡など主として中・近世の遺跡として周知されている遺跡とその周辺から採集されている。また、西赤尾遺跡の南方からも採集されている。

（次山　淳）

３　山間部と扇状地部における土地利用の変遷－遺物の採集点数と採集ブロック数の比較から－

平地域・上平地域は、庄川上流域にあって、周囲を急峻な山岳に囲まれた岐阜県境の山間部に位置する。これまで調査を実施した福光地域、井波地域、井口地域は、小矢部川や庄川がつくりだす扇状地を中心にしており、同じ南砺市にありながら大きく距離を隔て、地形的にも様相を異にしている（５頁第２図参照）。

第３表は扇状地部の福光・井波・井口地域と山間部の平・上平地域における遺物の採集点数と採集ブロック数を比較したものである。縄文時代には扇状地部、山間部ともに遺跡の存在が知られ、点数に差はあるものの各地域で遺物が採集されている。しかし、稲作がはじまり一般的に平地部への集落の進出がすすむ弥生・古墳時代には、一部を除いてほとんど遺物が採集されなくなる。古代には扇状地部における開発の進展とともに採集点数と採集ブロック数が増加する。とりわけ、採集点数が多いのは中世荘園の石黒荘に隣接する福光地域１と、国史跡の古代荘園である高瀬遺跡が属する井波地域２であり、この地区を中心にした開発、居住が古代から中世、そして近世へと引き継がれる傾向が伺える。

古代には未だ山間部までには開発の波は押し寄せていないようである。遺物の撒布が再び見られるようになるのは、ようやく中世に入ってからだが、近世にかけて採集点数と採集ブロック数が平地域・上平地域ともに増加しており、人々が順に庄川上流域へ足を踏み入れていく様子を読み取ることができる。

（髙橋浩二）

第３表　各地域における遺物の採集点数と採集ブロック数

報告年度	地域	標高	縄文	弥生・古墳	古代	中世	近世以後
平成18（2006）	福光地域1	約65～100m	30／4		198／48	145／47	184／57
平成19（2007）	福光地域2	約100～270m	27／6		1／1	3／3	55／33
平成20（2008）	福光地域3	約60～100m			77／27	29／21	48／25
平成21（2009）	福光地域4	約80～160m	1／1		21／13	23／16	12／9
平成22（2010）	福光地域5	約130～260m	1／1			1／1	1／1
	井波地域1	約70～95m	3／2	1／1	13／12	40／28	26／25
平成23（2011）	井波地域2	約80～150m	1／1	6／3	299／83	137／77	158／81
平成24（2012）	井口地域	約80～150m	1／1		28／14	57／24	20／18
平成25（2013）	平地域	約250～620m	21／3			6／4	23／16
	上平地域	約300～470m	74／2			3／3	9／8

（採集点数／採集ブロック数）

Ⅳ　まとめ

本報告は、平成24年11月に実施した旧平村の平地域、平成25年10月に実施した平地域および旧上平村の上平地域の詳細分布調査の成果を取りまとめたものである。調査範囲は、庄川両岸の段丘上を中心に、平地域の祖山地区から上平地域の成出地区にいたる南北約20㎞の広範囲におよぶ。この範囲には、第１～２表および第５～12図に示したように、平地域25遺跡、上平地域20遺跡の計45遺跡が周知されている。

多くが縄文時代の遺跡であり、なかでも平地域の東中江遺跡は、1978年～79年にかけて東中江小学校建設にともなう発掘調査が実施され、五箇山ではじめての竪穴住居跡の発見として著名である。

縄文時代の遺物は、平地域の東中江遺跡と上梨遺跡、上平地域の皆葎遺跡の3遺跡において、従来周知されていた範囲とその周辺から多量に採集された。この成果から、東中江遺跡では北東方向へ南北約120m・東西約75m、皆葎遺跡においても同じく北東方向へ南北約75m・東西約100mその範囲を広げることになった。弥生時代～古代にかけての状況については十分な資料が得られなかったが、中世～近世以降にかけての遺跡のありかたは、従来の認識をおおむね追認するものとなったといえる。

なお、平成25年度の調査では、境川ダムの建設によって形成された人造湖である桂湖において、水位測定標示板の取り替え工事により水位を下げていたことから、湖底の踏査も合わせて実施したことを付記しておく。

平・上平地域の調査はいずれも秋期に実施したこともあり、周知された遺跡・散布地であってもその内容が明らかにできなかったものも少なくない。今後さらに、それぞれの遺跡のありかたの把握に努めることが求められる。

（次山　淳）

参考文献

上平村役場『上平村誌』上平村役場　1982

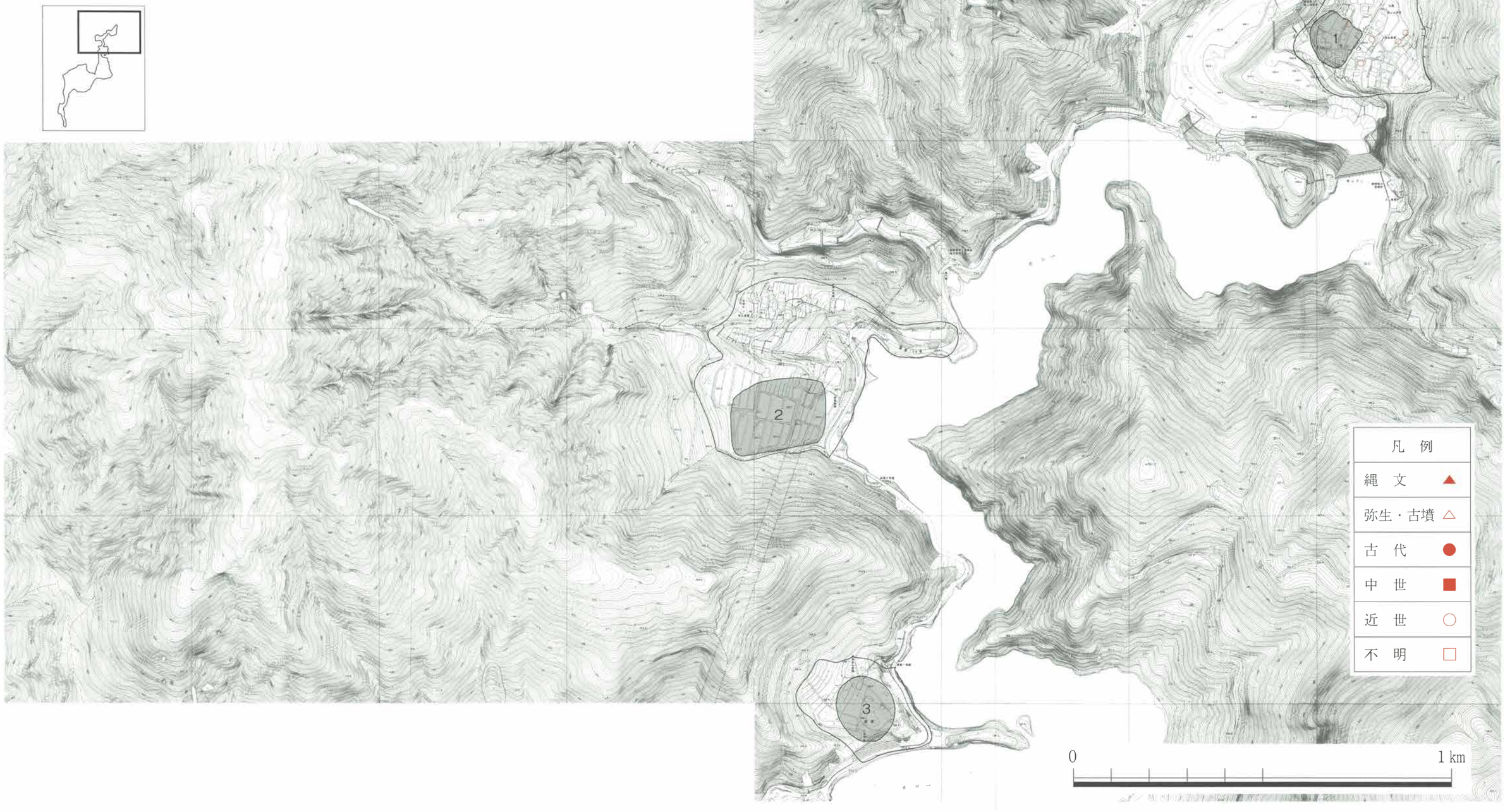
小林達雄編『総覧　縄文土器』アム・プロモーション　2008

城端町教育委員会『城端町埋蔵文化財分布調査報告Ⅱ　2002年度』2003
平村史編纂委員会『越中五箇山平村史』上巻　平村　1985
平村史編纂委員会『越中五箇山平村史』下巻　平村　1983
平村文化財保護審議会『平村の文化財』平村教育委員会　2002
田辺昭三『須恵器大成』角川書店　1981
富山県埋蔵文化財センター『東中江遺跡－富山県平村東中江所在の縄文遺跡発掘調査報告－』平村教育委員会　1982
富山県埋蔵文化財センター「平村来栖遺跡発掘調査概要」『東中江遺跡－富山県平村東中江所在の縄文遺跡発掘調査報告－』平村教育委員会　1982
富山県埋蔵文化財センター『富山県中世城館遺跡総合調査報告書』　2006
永峯光一編『縄文土器大成』第2巻　中期　講談社　1981
南砺市教育委員会『南砺市埋蔵文化財分布調査報告1－城端地域5－』南砺市埋蔵文化財調査報告書9　2006
南砺市教育委員会『矢張下島遺跡調査報告－利賀ダム建設工事に伴う平成15～17年度の調査－』南砺市埋蔵文化財調査報告書18　2007
南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告2－福光地域1－2006年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書17　2007
南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告3－福光地域2－2007年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書22　2008
南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告4－福光地域3－2008年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書24　2009
南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告5－福光地域4－2009年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書28　2010
南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告6－福光地域5・井波地域1－2010年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書29　2011
南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告７－井波地域２－2011年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書31　2012
野口義麿編『縄文土器大成』第3巻　後期　講談社　1981
北陸中世考古学研究会『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』第19回北陸中世考古学研究会資料集　2006
北陸中世土器研究会『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』第5回北陸中世土器研究会　1992
北陸中世土器研究会編『中・近世の北陸　考古学が語る社会史』桂書房　1997
吉岡康暢『中世須恵器の研究』吉川弘文館　1994

第４表　調査結果一覧（内容変更の遺跡のみ記載）

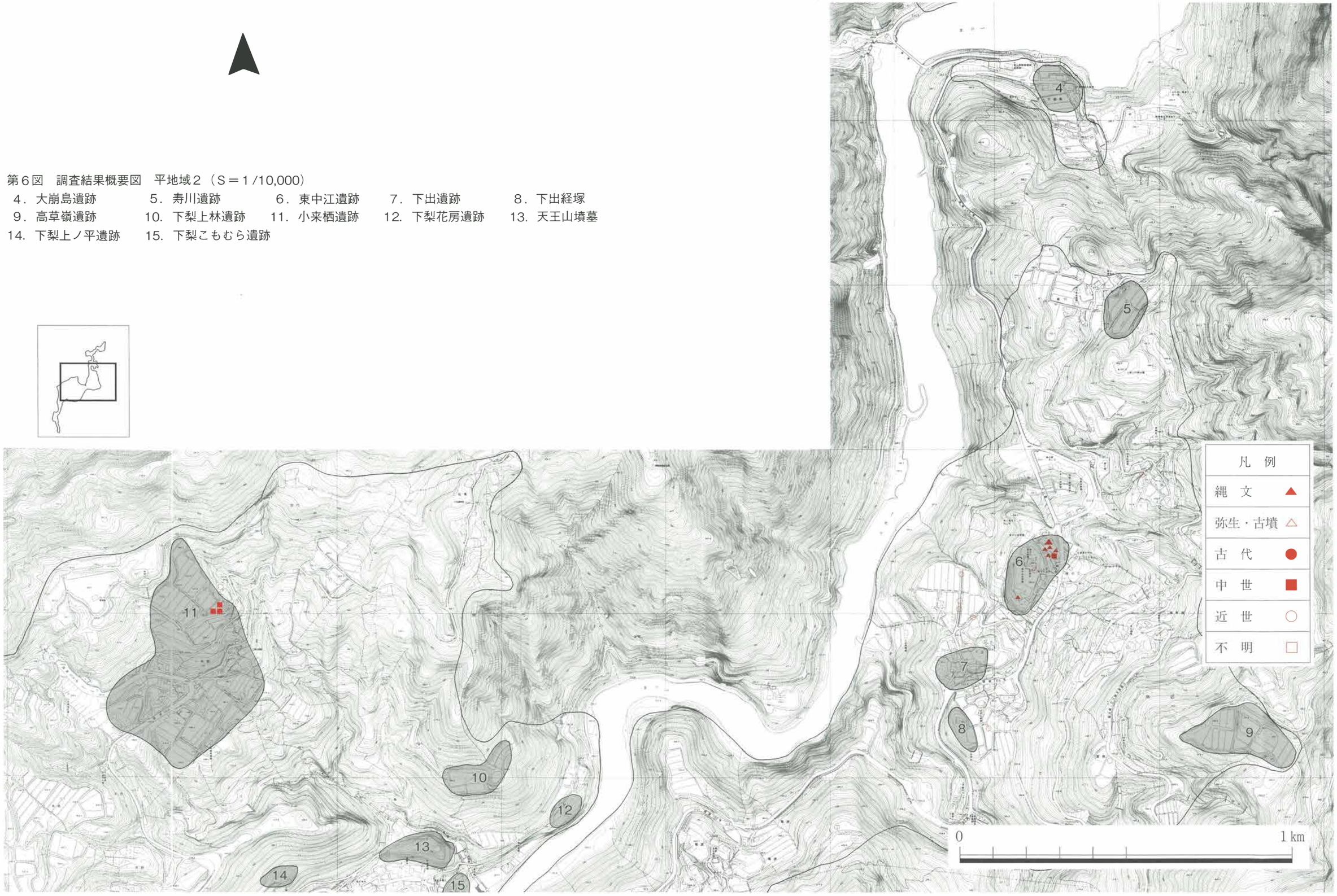
遺　跡　名	ふりがな	所　在　地	主な時代	種　　別	備　　考	No.
東中江遺跡	ひがしなかえいせき	東中江字西平	縄文	縄文散布地、 古代散布地、 中世散布地	H25範囲拡大	第６図 No.6
皆葎遺跡	かいむくらいせき	皆葎	縄文	縄文散布地	H25範囲拡大	第９図 No.28

第５図　調査結果概要図　平地域１（Ｓ＝１/10,000）
１．祖山遺跡　　２．杉尾遺跡　　３．渡原遺跡



第６図　調査結果概要図　平地域２（Ｓ＝１/10,000）

４．大崩島遺跡　５．寿川遺跡　６．東中江遺跡　７．下出遺跡　８．下出経塚
９．高草嶺遺跡　10．下梨上林遺跡　11．小来栖遺跡　12．下梨花房遺跡　13．天王山墳墓
14．下梨上ノ平遺跡　15．下梨こもむら遺跡



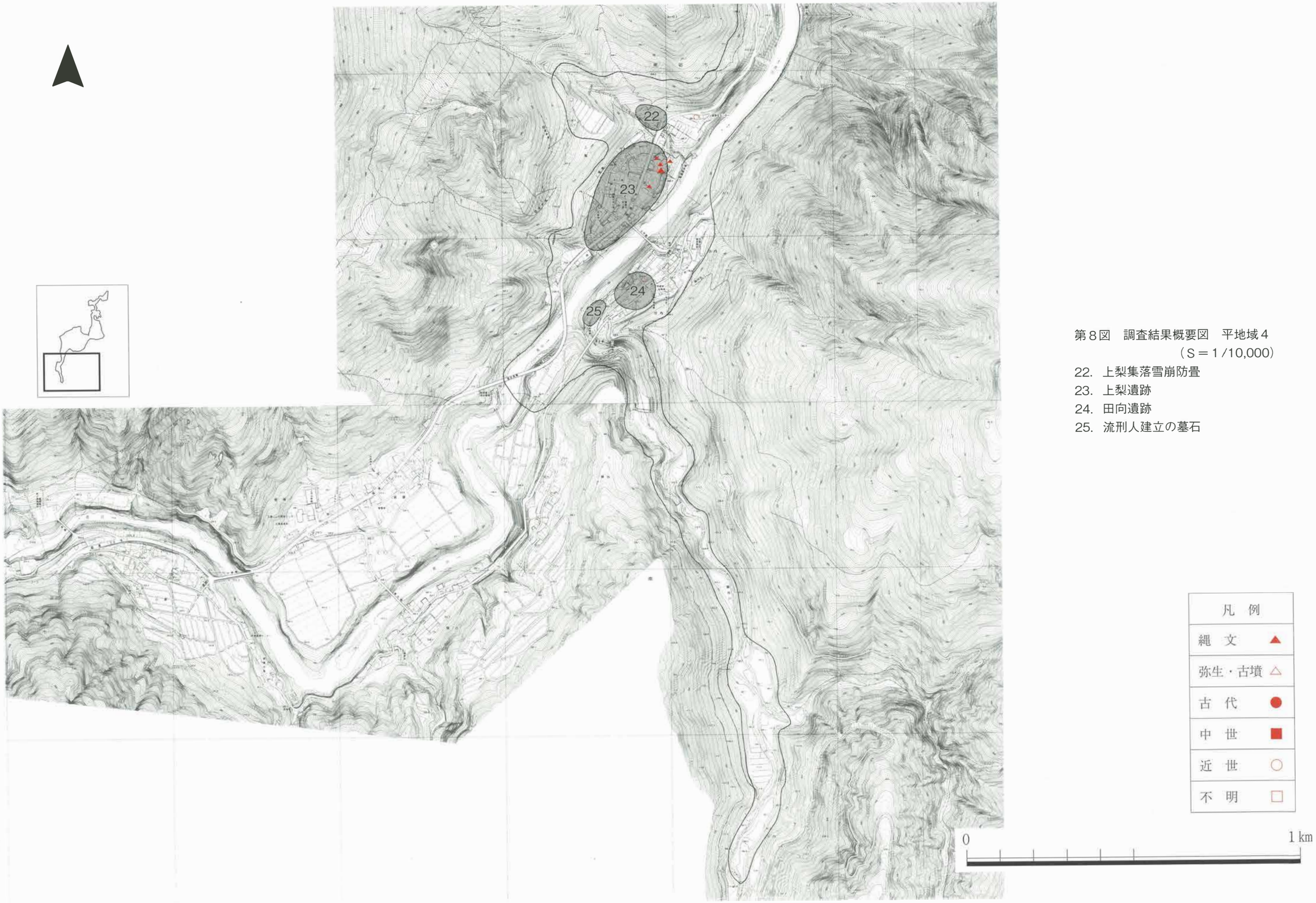
第７図　調査結果概要図　平地域３

（Ｓ＝１/10,000）

7．下出遺跡　8．下出経塚
10．下梨上林遺跡　11．小来栖遺跡
12．下梨花房遺跡　13．天王山墳墓
14．下梨上ノ平遺跡　15．下梨こもむら遺跡
16．藤井城跡　17．下梨馬馳場遺跡
18．下梨中ノ平遺跡　19．籠渡遺跡
20．来栖遺跡　21．峠遺跡

凡　例	
縄　文	▲
弥生・古墳	△
古　代	●
中　世	■
近　世	○
不　明	□

0　1 km



第８図　調査結果概要図　平地域４
（S＝１/10,000）

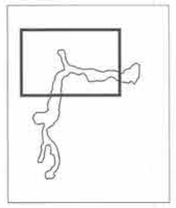
22. 上梨集落雪崩防畳
23. 上梨遺跡
24. 田向遺跡
25. 流刑人建立の墓石

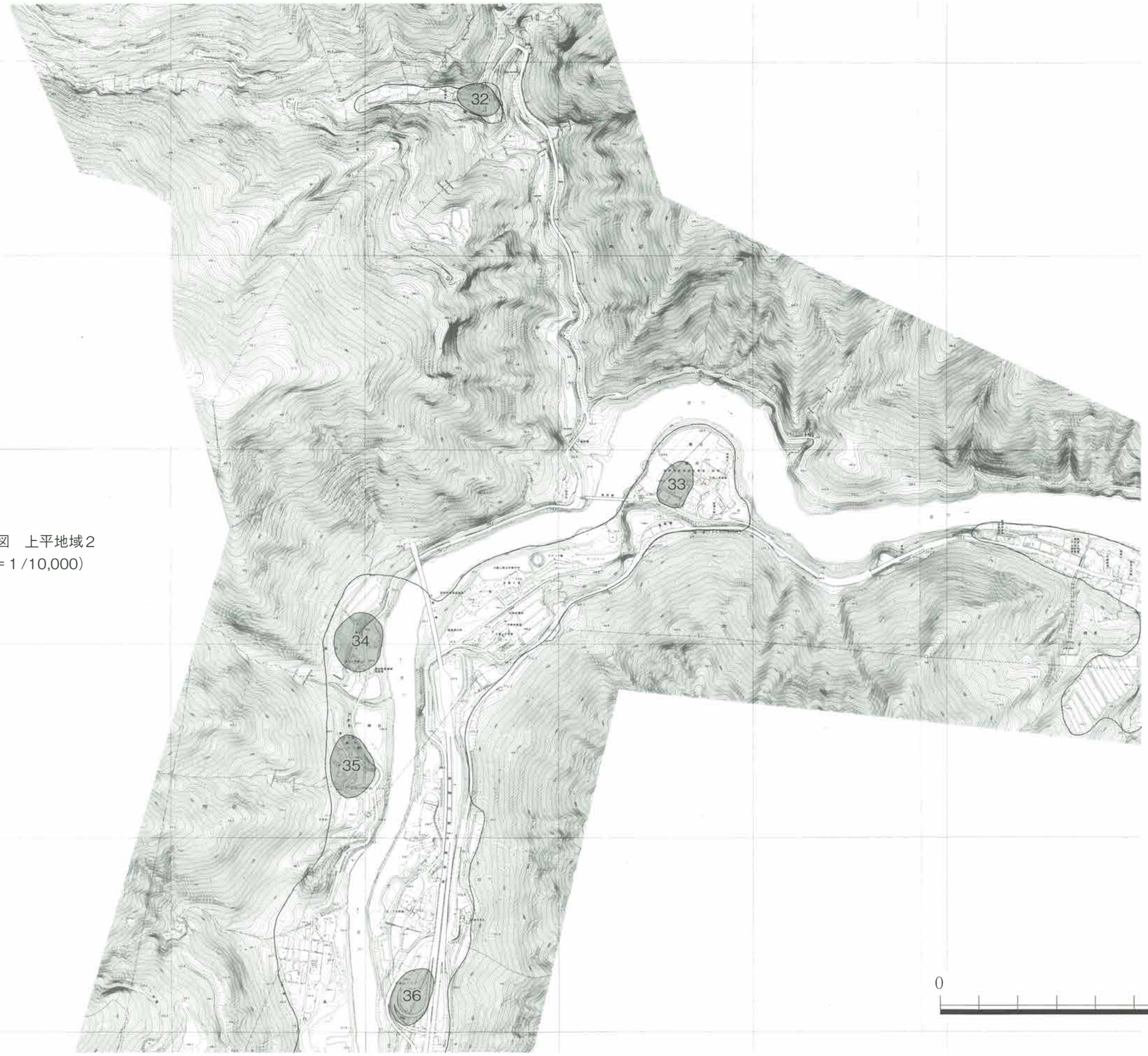
第９図　調査結果概要図　上平地域１（S＝１/10,000）

26. 高草嶺遺跡　27. 八若城跡　28. 皆葎遺跡　29. 下島遺跡　30. 小原遺跡　31. 細島遺跡

第10図　調査結果概要図　上平地域２
（S＝1/10,000）

32. 小瀬遺跡
33. 菅沼遺跡
34. 漆谷城跡
35. 漆谷遺跡
36. 上中田遺跡



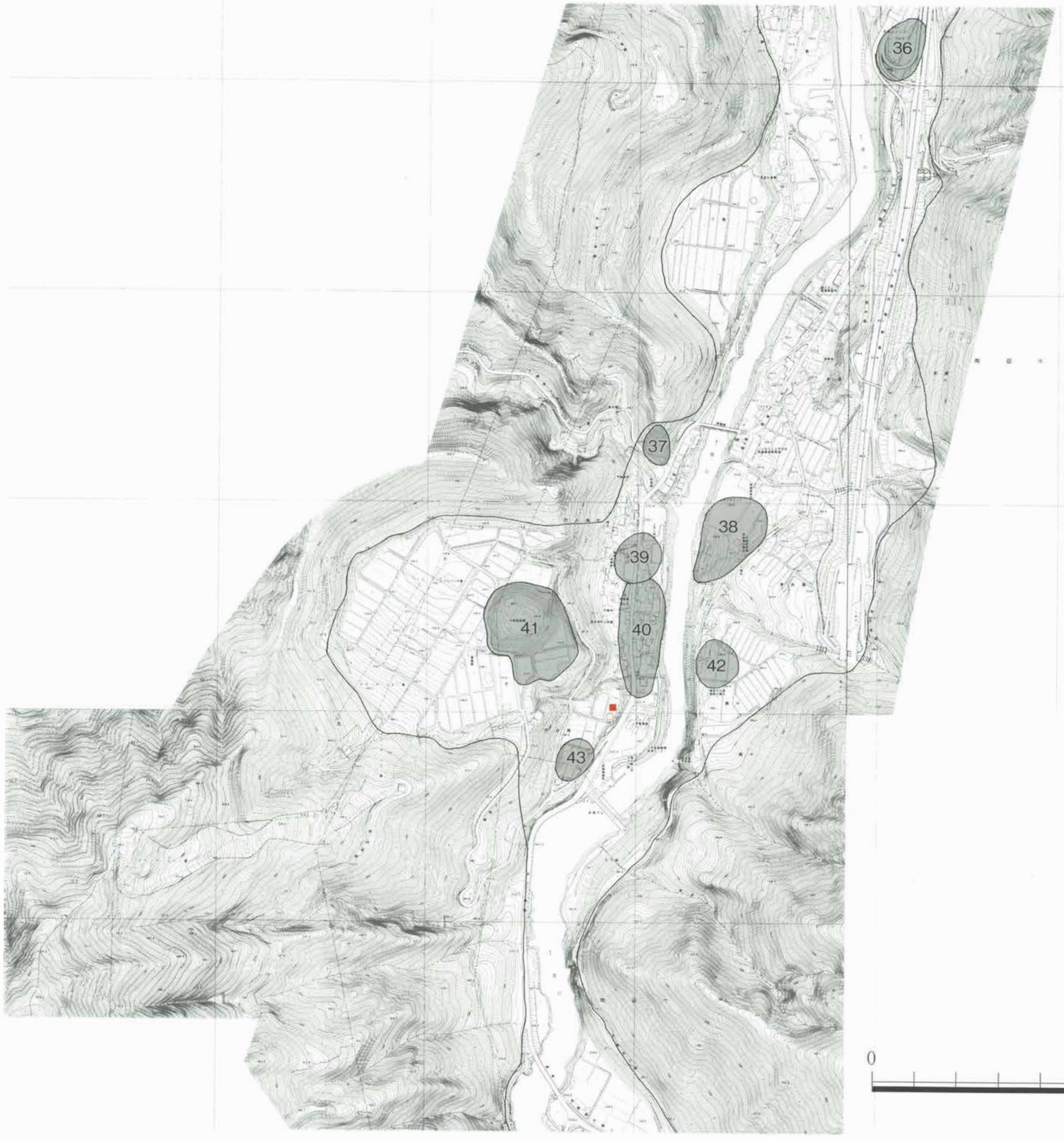


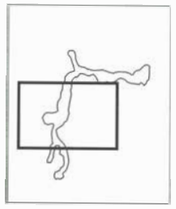
凡　例	
縄　文	▲
弥生・古墳	△
古　代	●
中　世	■
近　世	○
不　明	□

0　1 km

第11図　調査結果概要図　上平地域３
（Ｓ＝１/10,000）

36. 上中田遺跡
37. 赤尾経塚
38. 東赤尾遺跡
39. 角淵刑部左衛門の墓
40. 西赤尾遺跡
41. 丸岡城跡
42. 真木経塚
43. 西赤尾上野遺跡



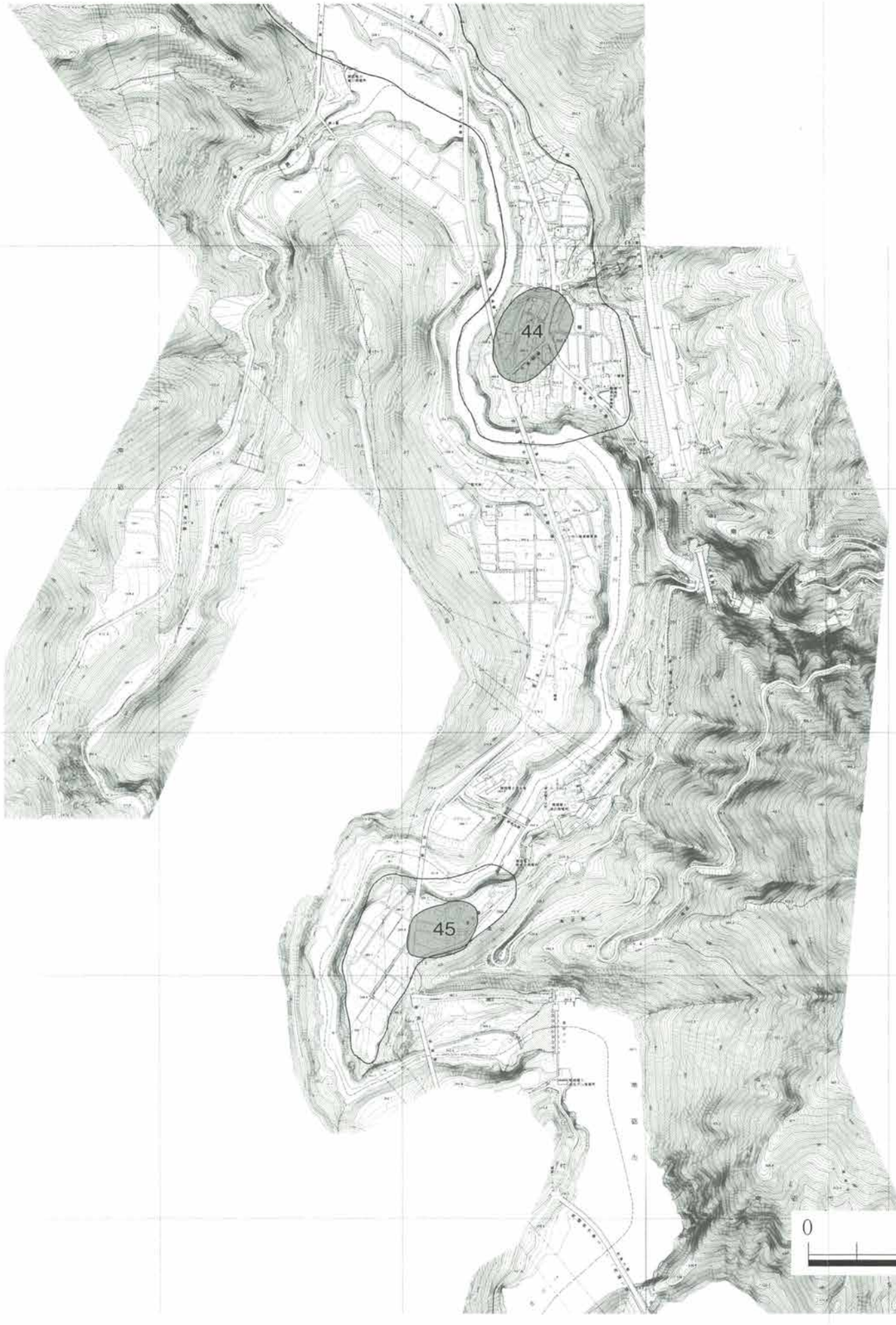


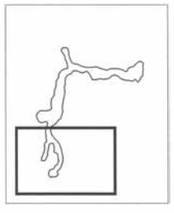
凡　例	
縄　文	▲
弥生・古墳	△
古　代	●
中　世	■
近　世	○
不　明	□

0　1 km

第12図　調査結果概要図　上平地域４
（Ｓ＝１/10,000）

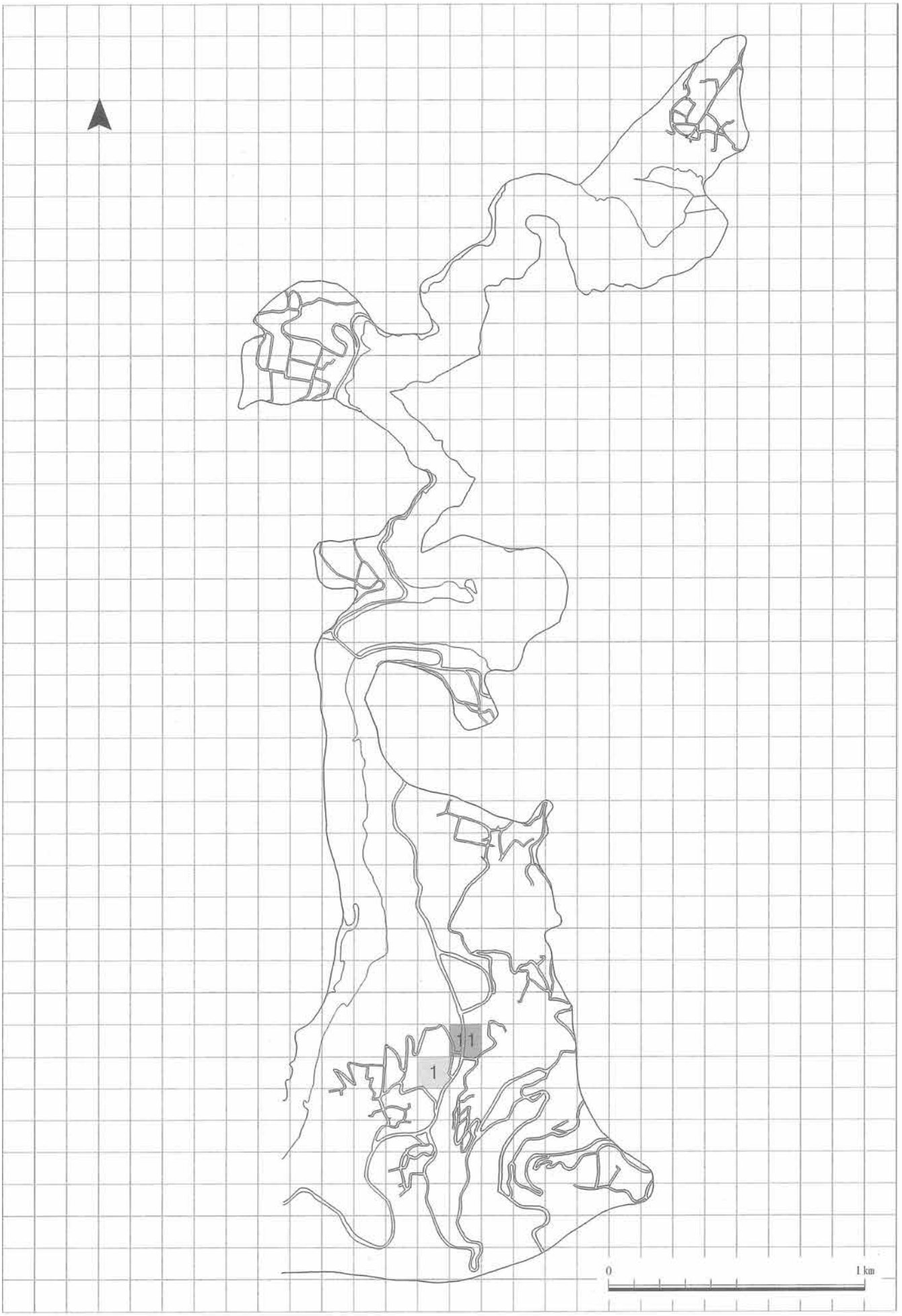
44. 楮遺跡
45. 成出遺跡



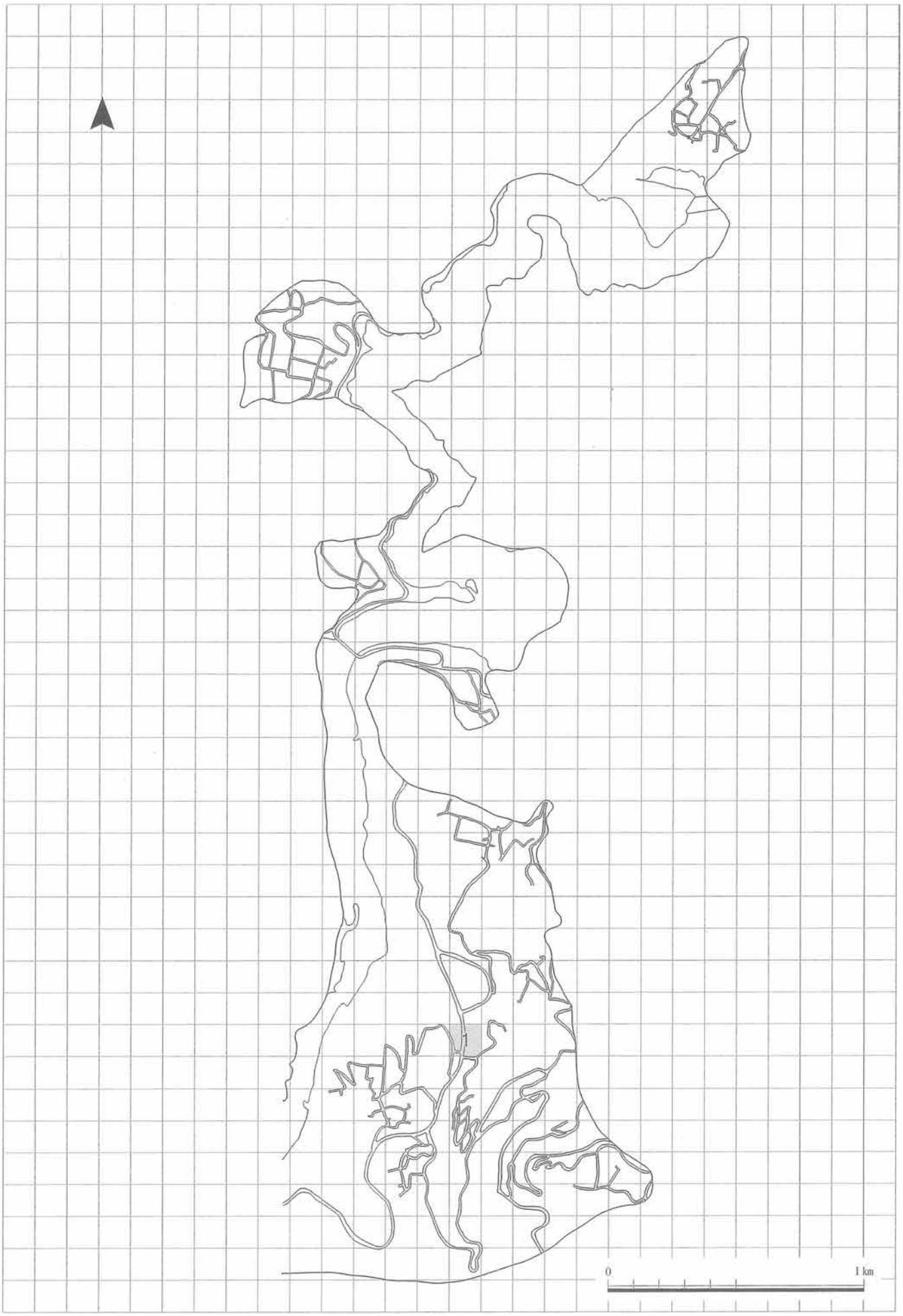


凡　例	
縄　文	▲
弥生・古墳	△
古　代	●
中　世	■
近　世	○
不　明	□

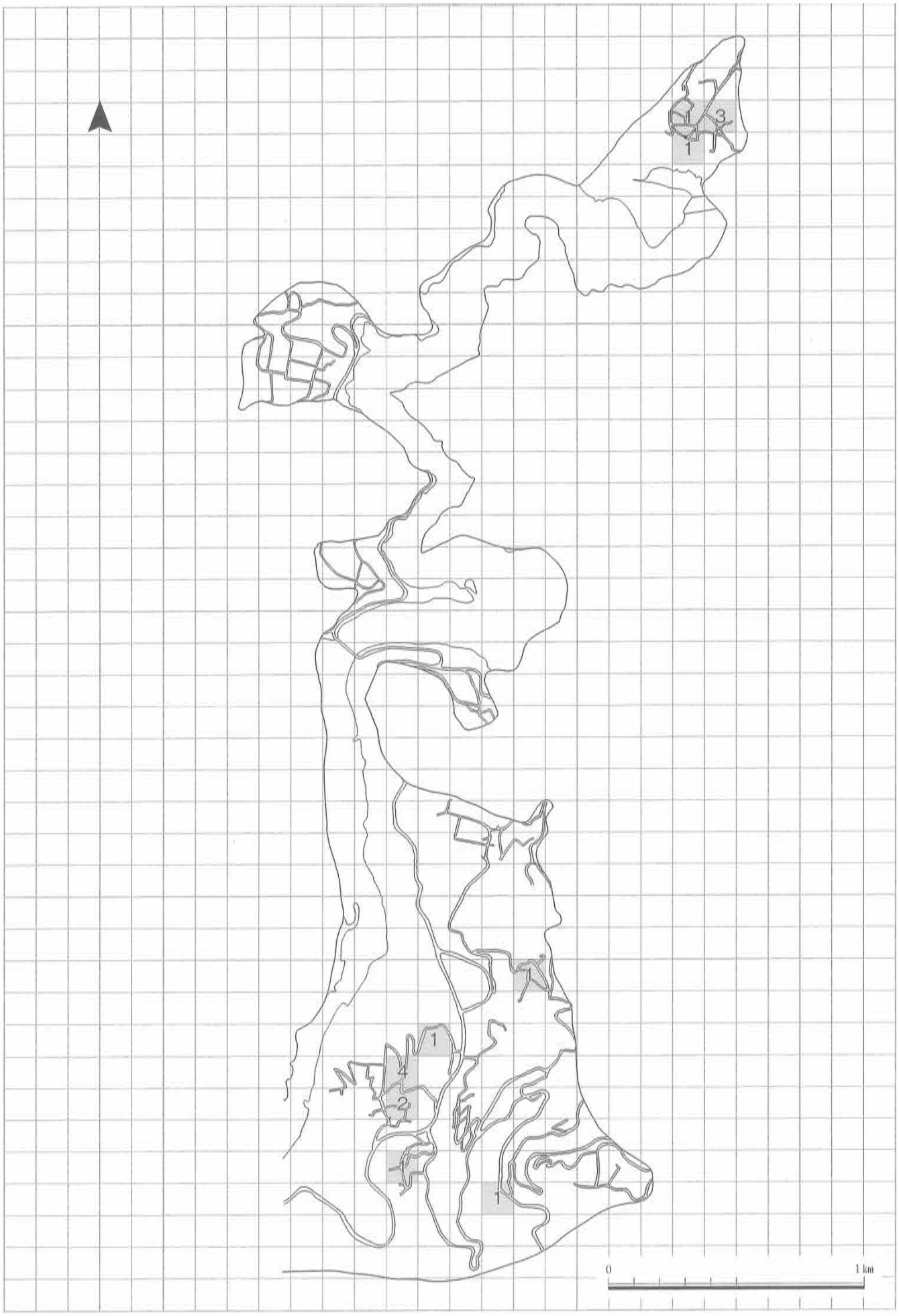
0　1 km



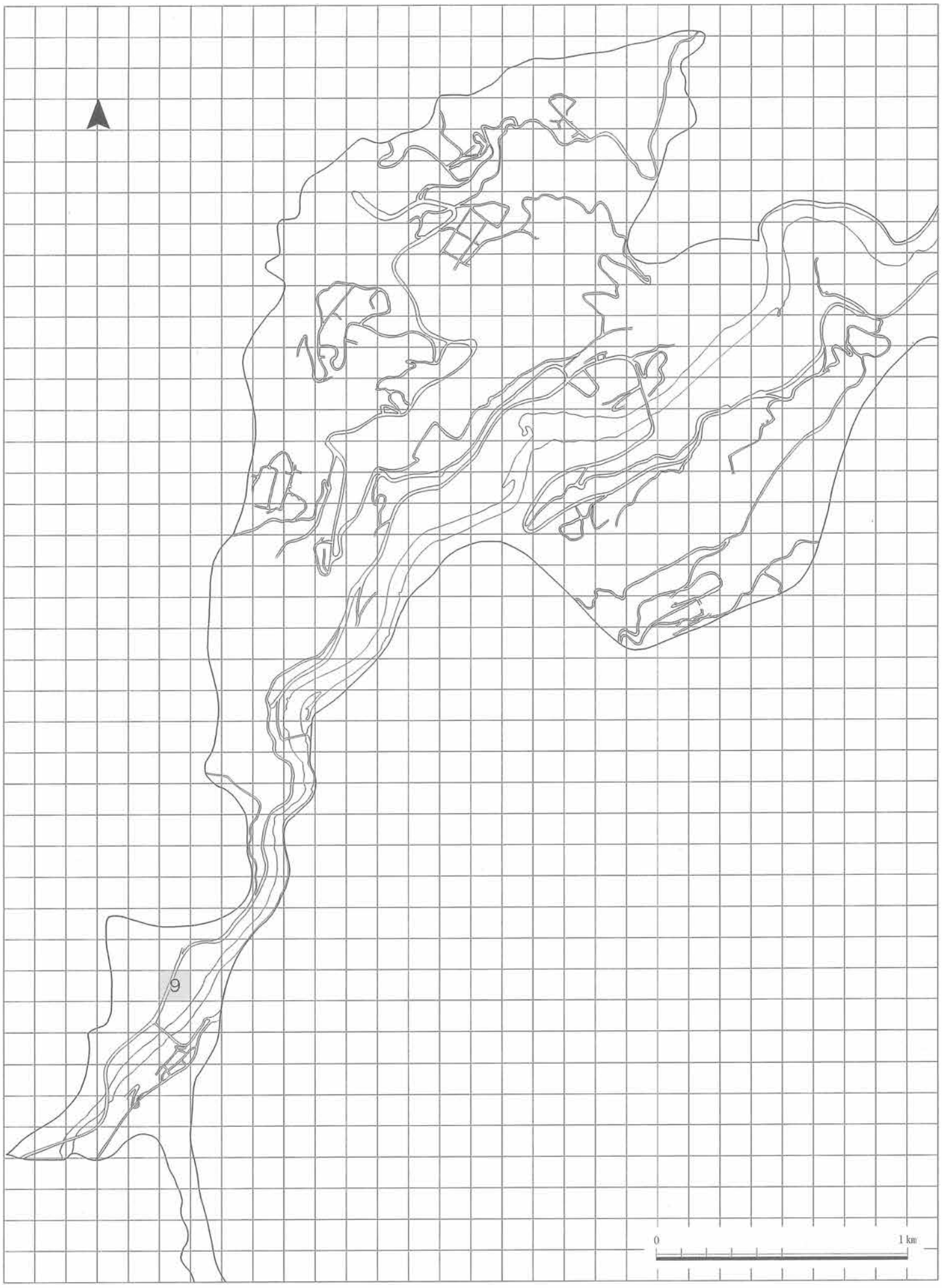
第13図　縄文・弥生～古墳の遺物散布状況　平地域１（S＝１/20,000）



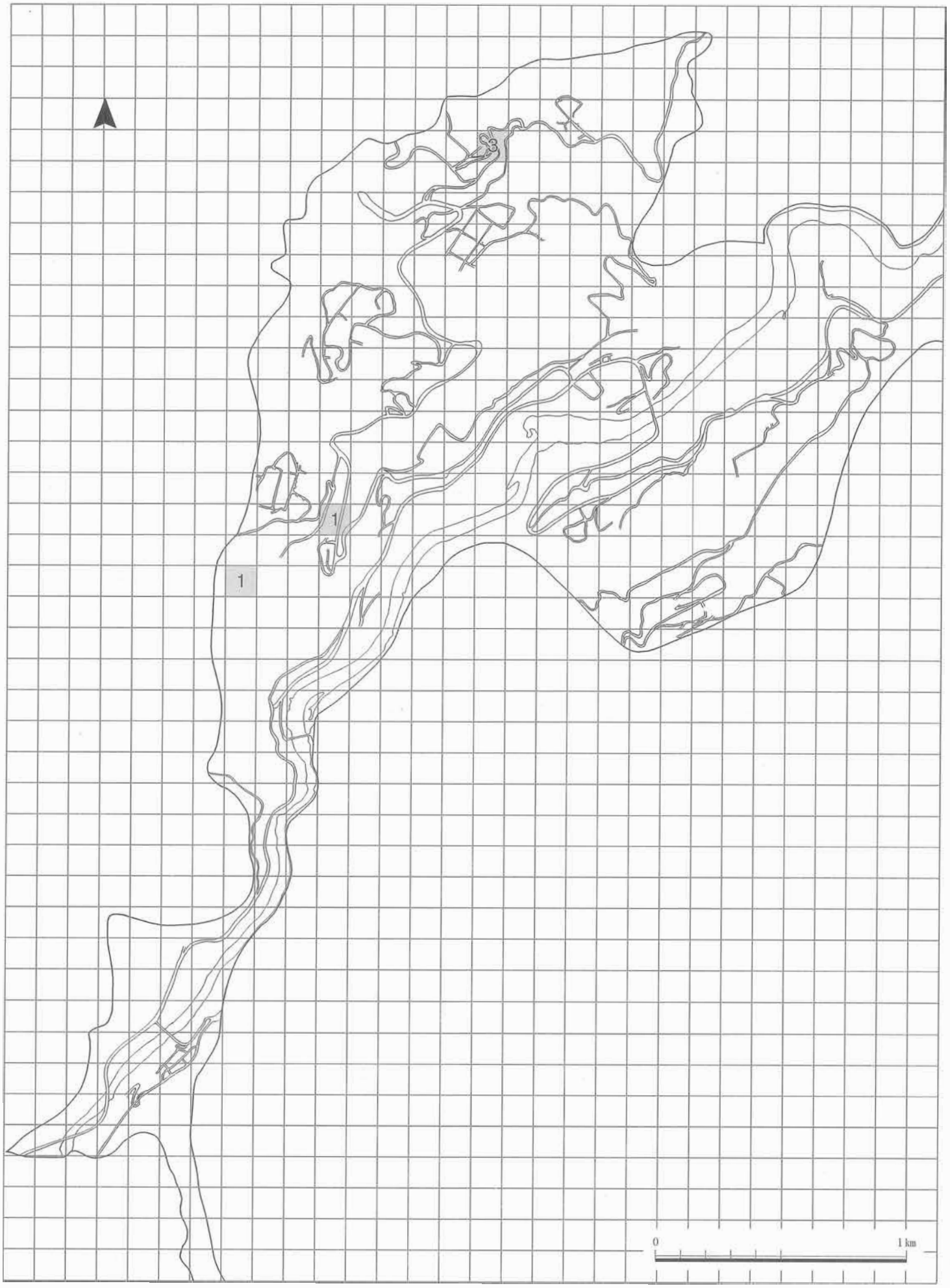
第14図　古代・中世の遺物散布状況　平地域１（Ｓ＝１/20,000）



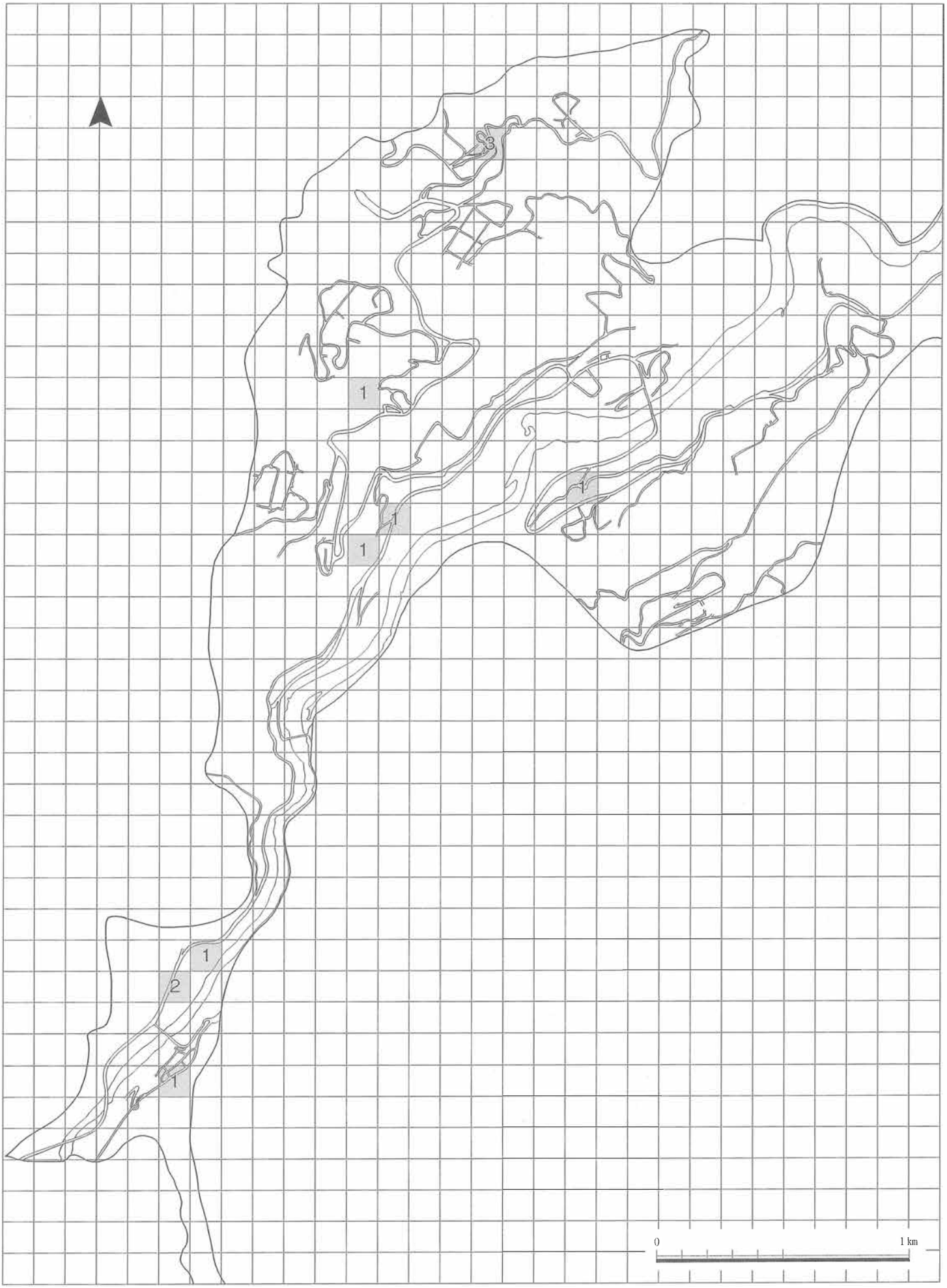
第15図　近世以降の遺物散布状況　平地域1（S＝1/20,000）



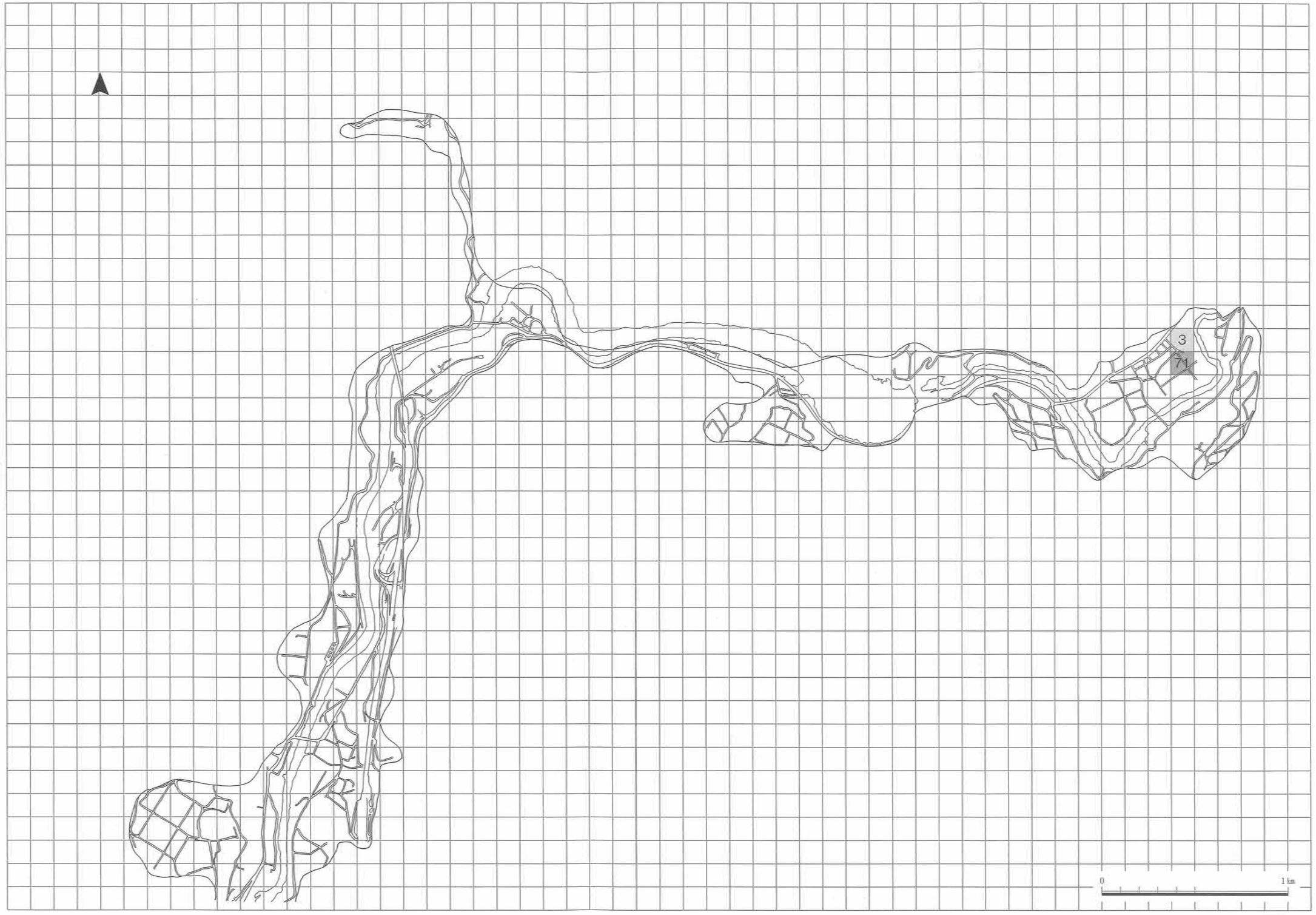
第16図　縄文・弥生～古墳の遺物散布状況　平地域２（S＝1/20,000）



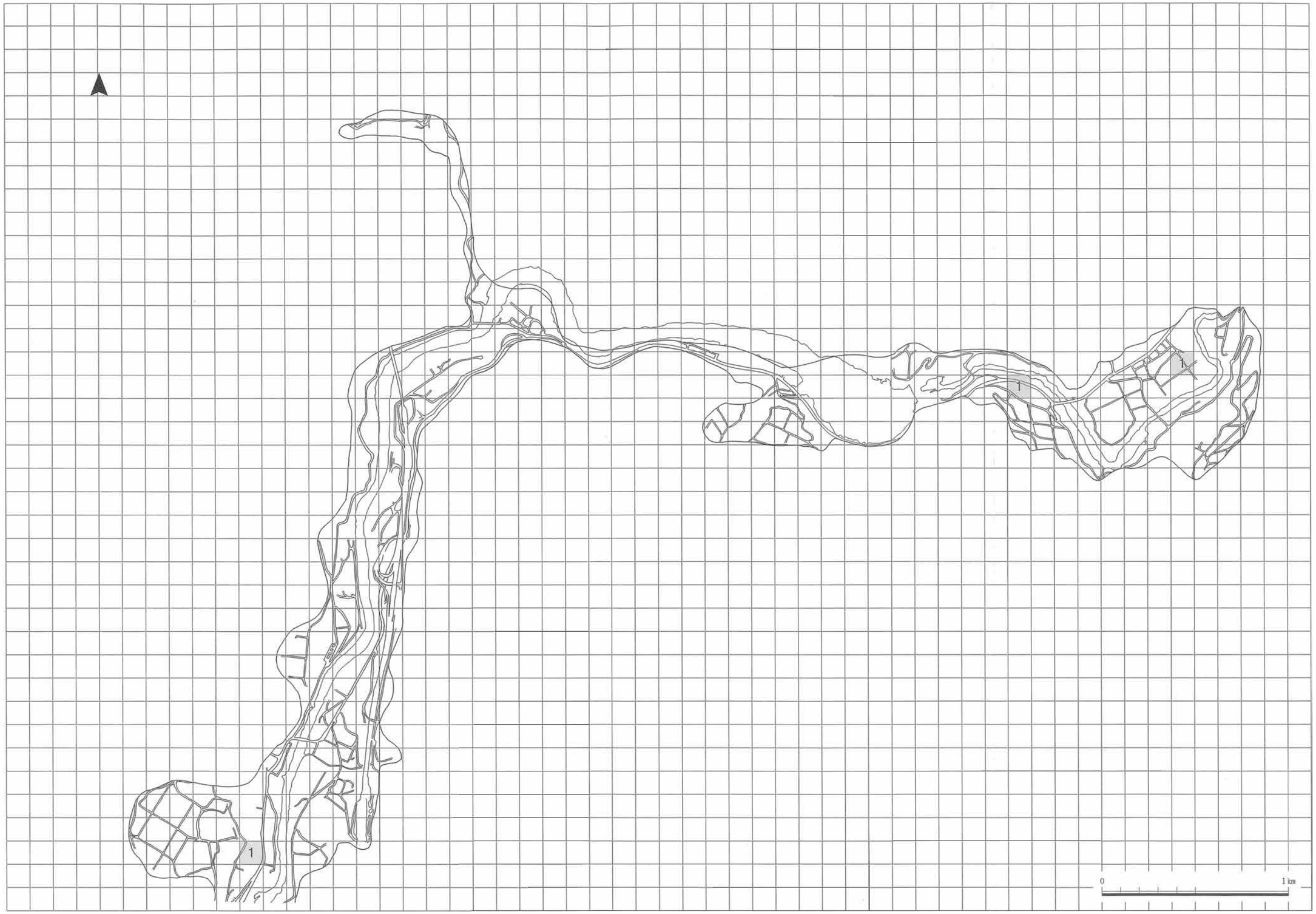
第17図　古代・中世の遺物散布状況　平地域２（S＝1/20,000）



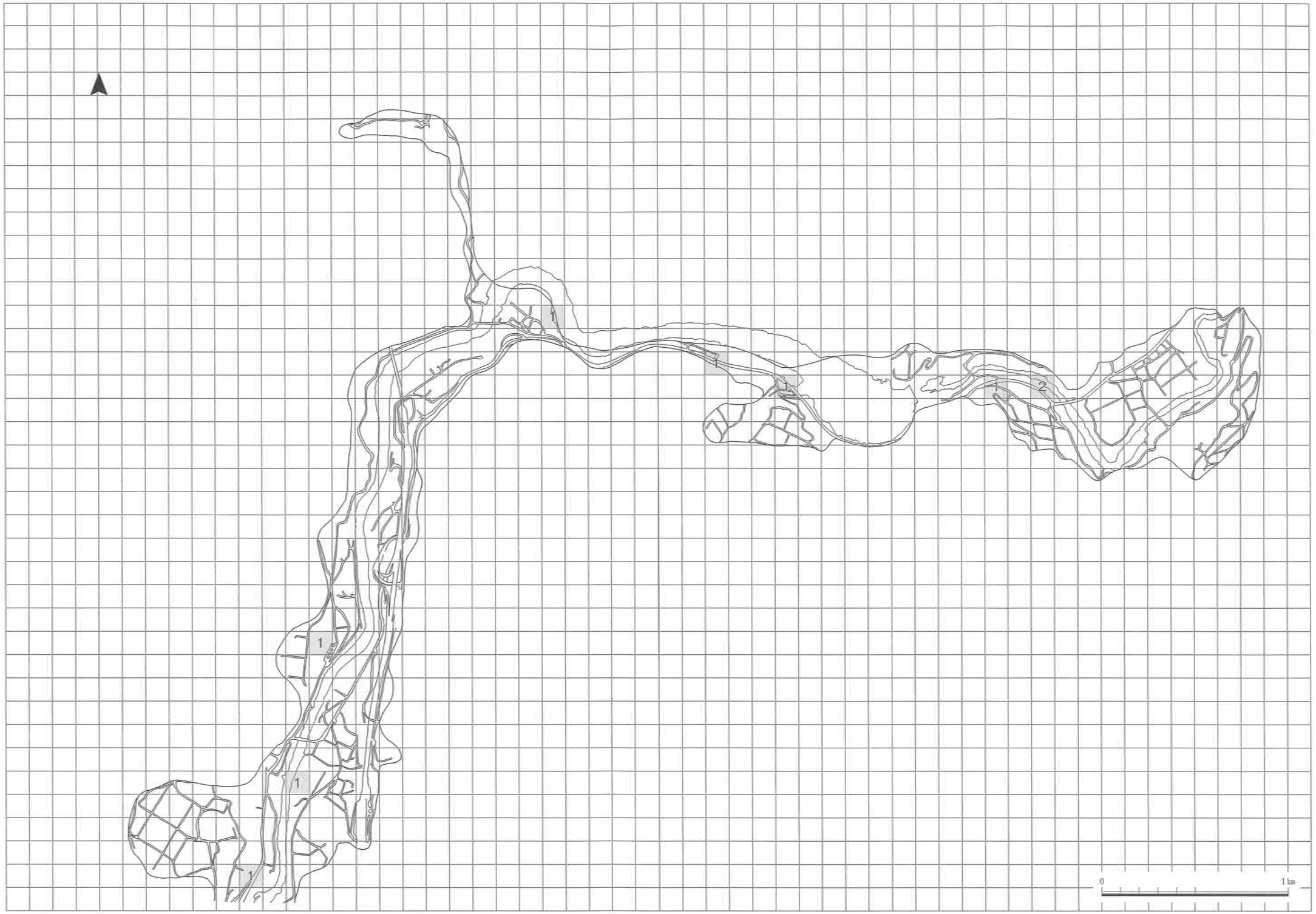
第18図　近世以降の遺物散布状況　平地域２（S＝１/20,000）



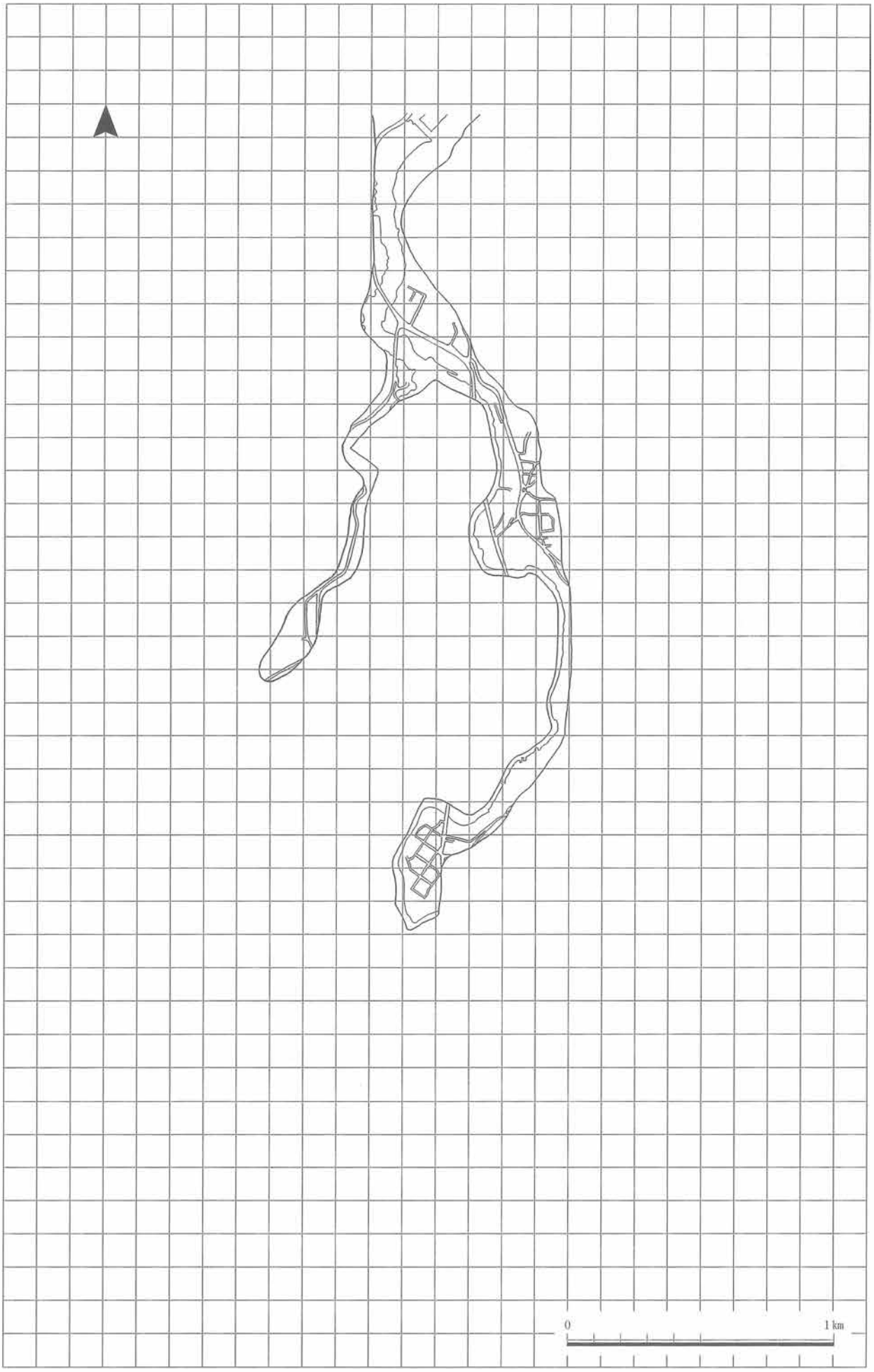
第19図　縄文・弥生～古墳の遺物散布状況　上平地域１（Ｓ＝１/20,000）



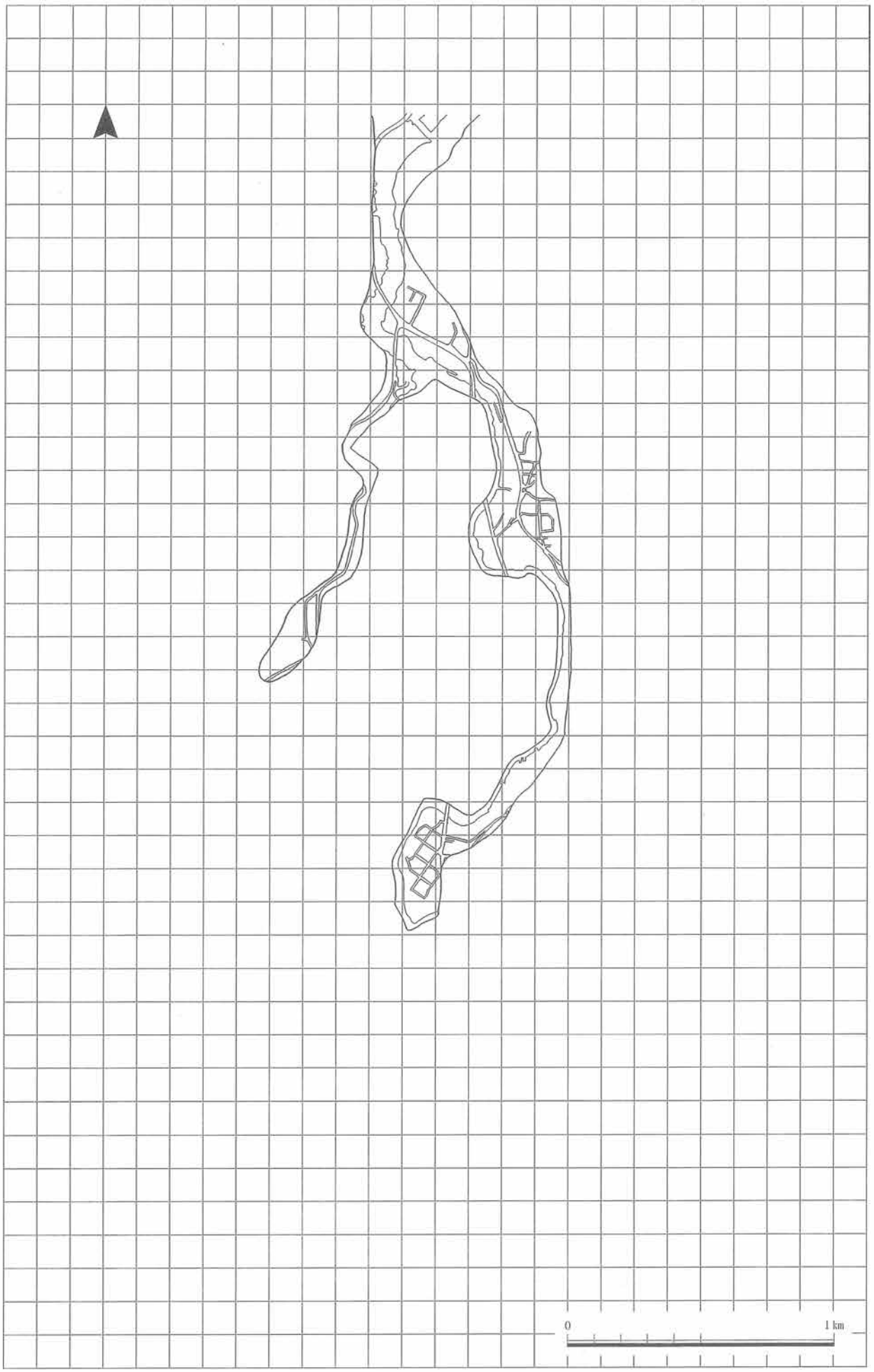
第20図　古代・中世の遺物散布状況　上平地域１（S＝１/20,000）



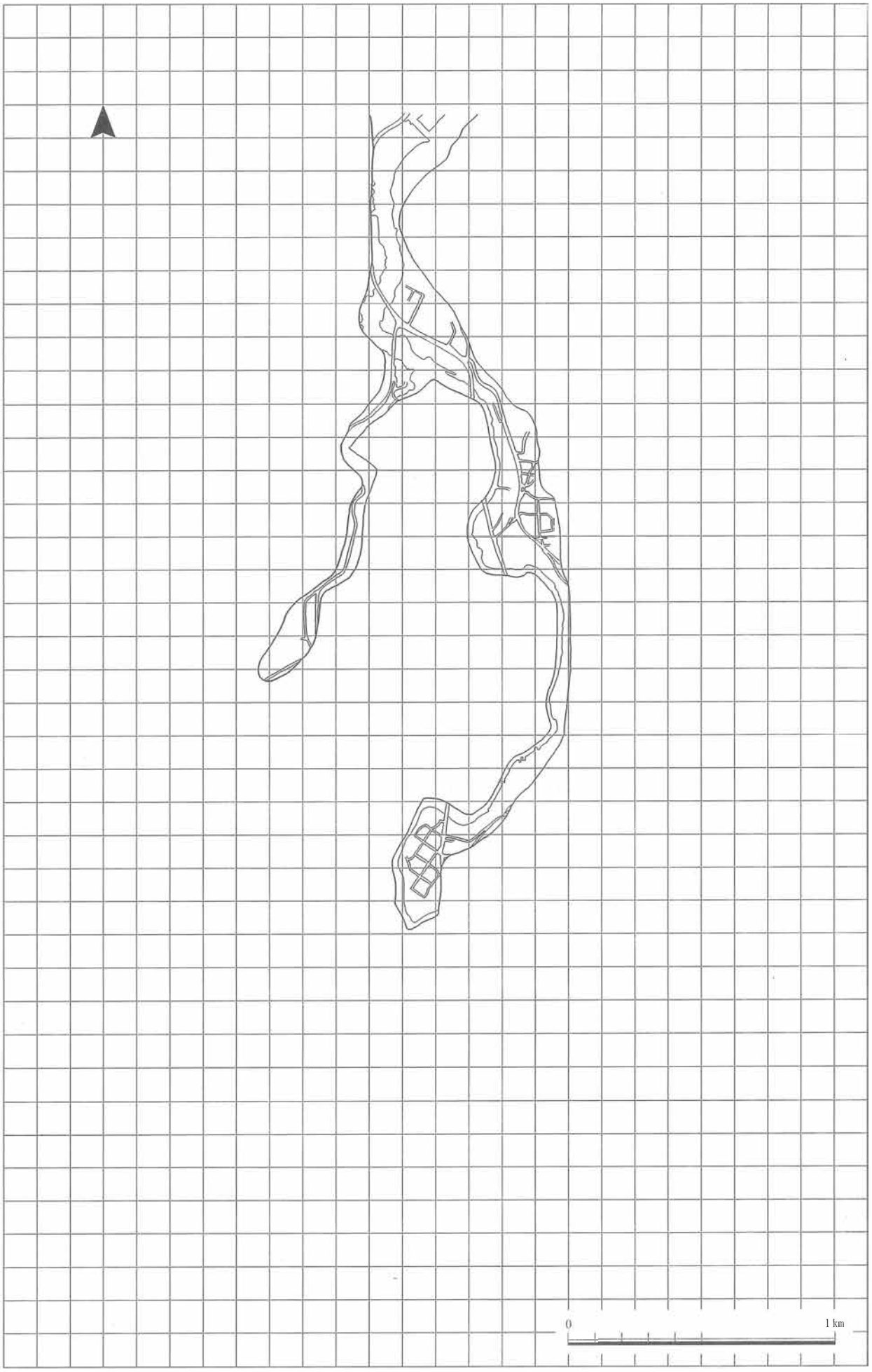
第21図　近世以降の遺物散布状況　上平地域１（Ｓ＝１/20,000）



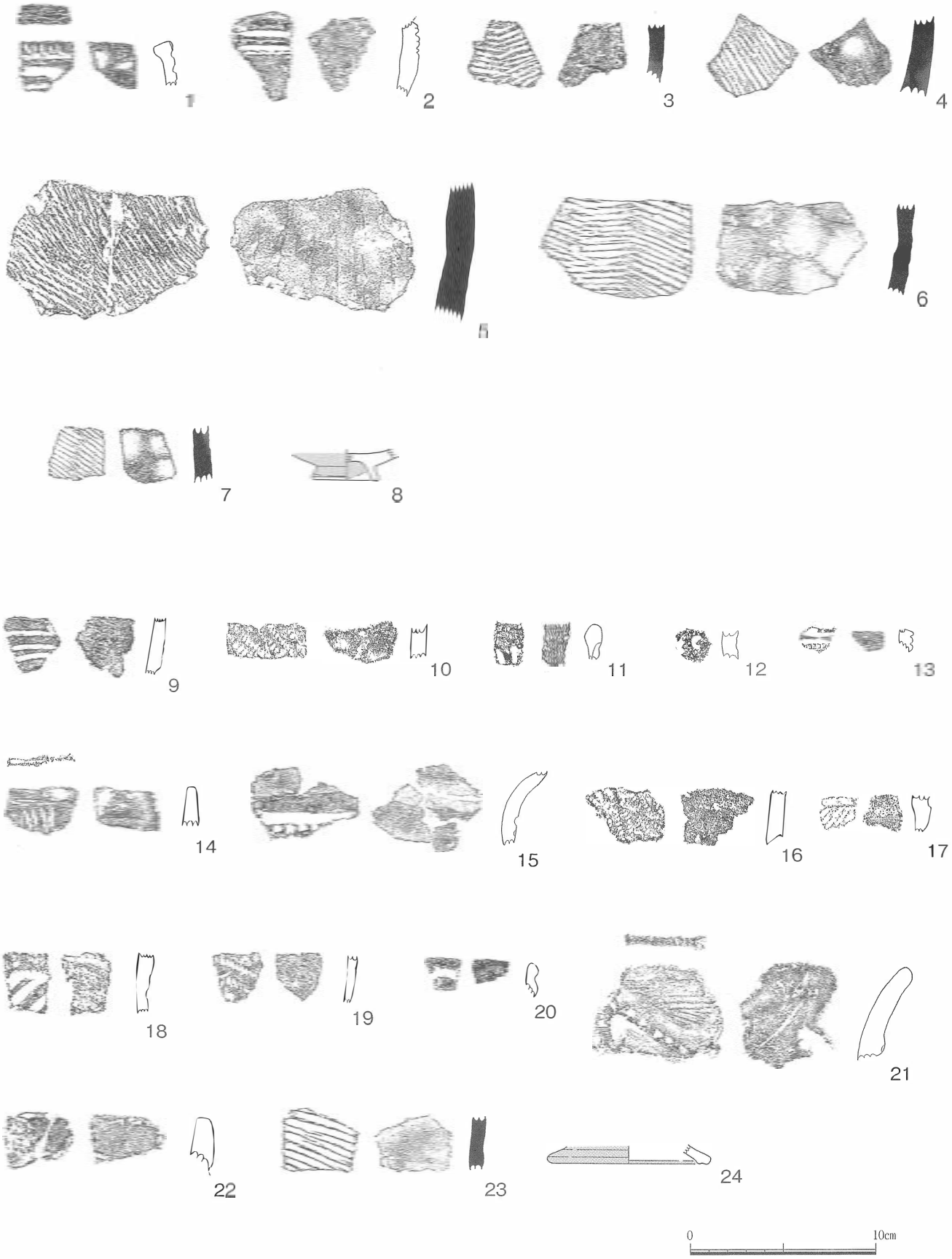
第22図　縄文・弥生～古墳の遺物散布状況　上平地域２（S＝１/20,000）



第23図　古代・中世の遺物散布状況　上平地域２（S＝1/20,000）



第24図　近世以降の遺物散布状況　上平地域２（S＝１/20,000）



第25図　遺物実測図　　1～3 東中江遺跡　　4・5 小来栖遺跡　　9～22 皆葎遺跡　　23 小原遺跡
6～8・24 遺跡範囲外出土品　S(=1／3)

図版1　遺跡全景（1）平地域1

1．大崩島遺跡　2．杉尾遺跡　3．渡原遺跡　4．祖山遺跡
5．寿川遺跡　6．東中江遺跡　7．下出遺跡　8．下出経塚

図版２　遺跡全景（２）平地域２

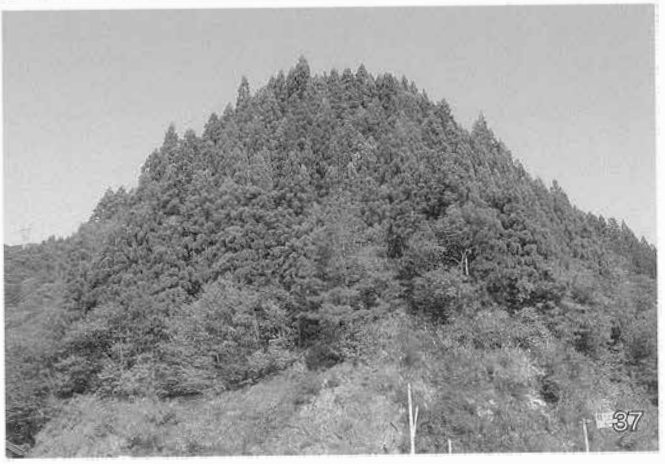
9．高草嶺遺跡　10．下梨上林遺跡　11．小来栖遺跡　12．下梨花房遺跡
13．天王山墳墓　15．下梨こもむら遺跡　16．藤井城跡　17．下梨馬馳場遺跡

図版３　遺跡全景（３）平地域３

18. 下梨中ノ平遺跡　19. 籠渡遺跡　20. 来栖遺跡　21. 峠遺跡
22. 上梨集落雪崩防畳　23. 上梨遺跡　24. 田向遺跡　25. 流刑人建立の墓石

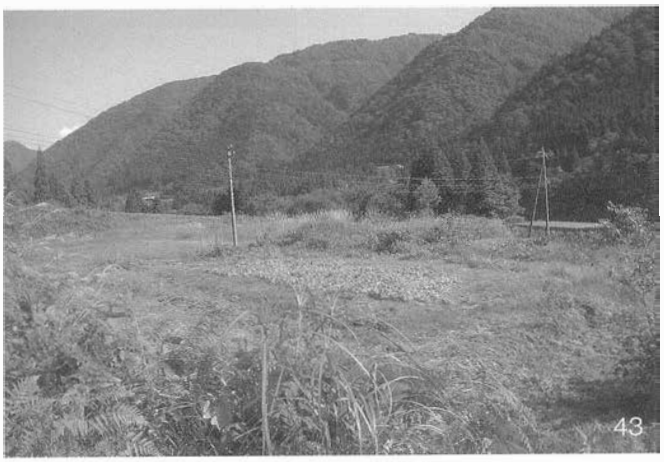
図版４　遺跡全景（４）上平地域１

26. 高草嶺遺跡　27. 八若城跡　28. 皆葎遺跡　29. 下島遺跡
30. 小原遺跡　31. 細島遺跡　32. 小瀬遺跡　33. 菅沼遺跡

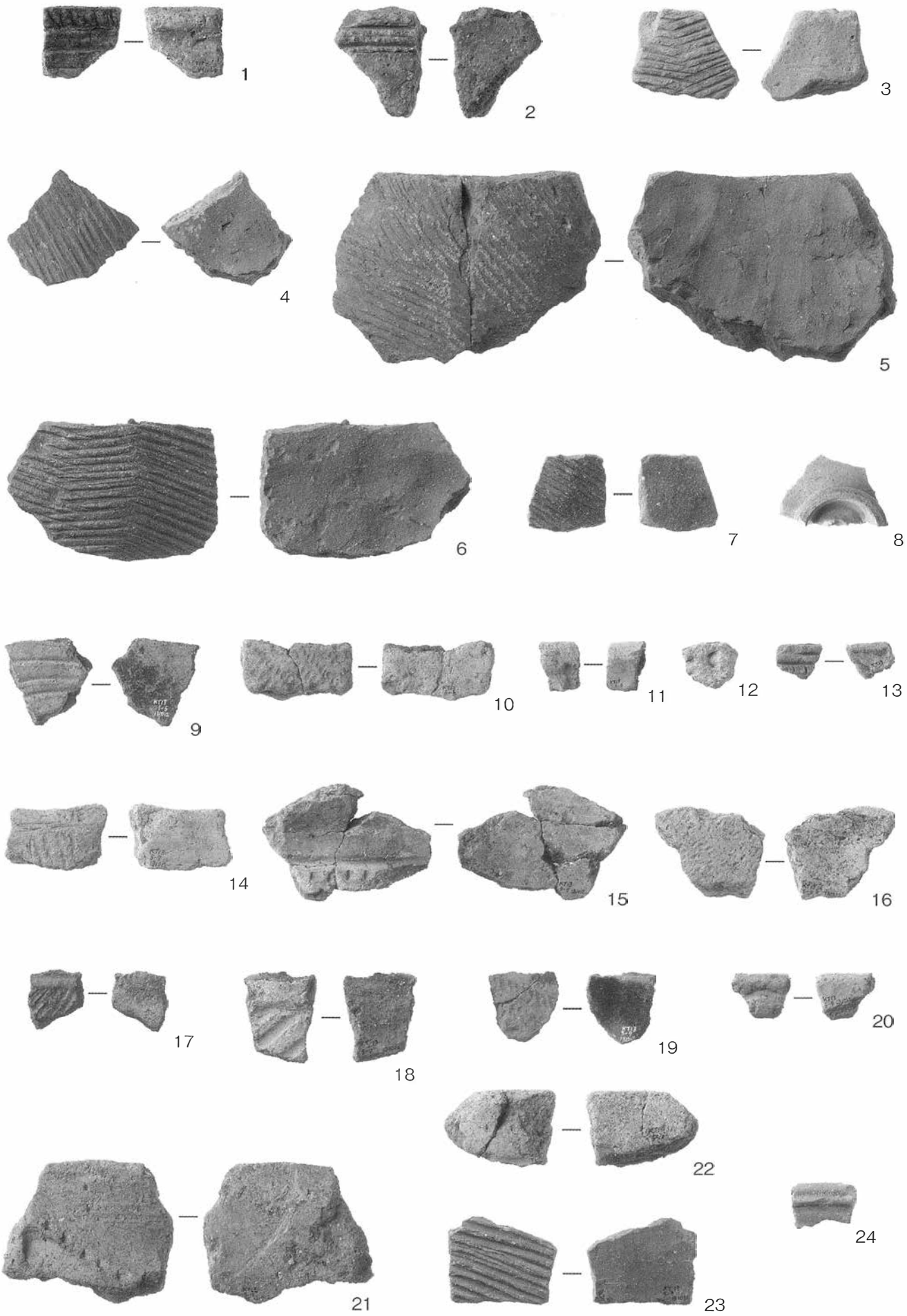


図版５　遺跡全景（５）上平地域２

34. 漆谷城跡　35. 漆谷遺跡　36. 上中田遺跡　37. 赤尾経塚
38. 東赤尾遺跡　39. 角淵刑部左衛門の墓　40. 西赤尾遺跡　41. 丸岡城跡



図版６　遺跡全景（６）上平地域３
42. 真木経塚　43. 西赤尾上野遺跡　44. 楮遺跡　45. 成出遺跡
46～49. 調査風景



図版７　遺物写真

報　告　書　抄　録

ふりがな	とやまけん　なんとしまいぞうぶんかざいぶんぷちょうさほうこくきゅう たいら・かみたいらちいき	
書名	富山県　南砺市埋蔵文化財分布調査報告９　―平・上平地域―	
シリーズ名	南砺市埋蔵文化財調査報告書 35	
編著者名	次山　淳　髙橋浩二　上野詩織　奥　勇介　高見淳人　西脇悠生　矢野実沙希 山口七奈枝　片田亜紀	
編集･発行機関	南砺市教育委員会	
所在地	〒932－0292　富山県南砺市井波520 ＴＥＬ（0763）23－2014	南砺市教育委員会
発行年月日	西暦2014年3月20日	

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
市内遺跡（しないいせき）	富山県（とやまけん） 南砺市（なんとし） 地内	16210	－	36° 34′ 22″	136° 55′ 38″	20131012 ～ 20131014	－	－

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市内遺跡	－	縄文 中世 近世	－	縄文土器 珠洲焼、 施釉陶器、 土師質土器、五輪塔	－

南砺市埋蔵文化財分布調査報告９

－平・上平地域－

平成26年３月20日

編集
発行　南砺市教育委員会

印刷　牧印刷株式会社